

























いけばな 桑原専慶流 2020年 1月号 No.679

編集発行 京都市中京区六角 烏丸西入 桑原専慶流家元







庚子(かのえ ね) 二〇二〇年・令和二年

「庚」は十千の七番目に当たり、「庚子」の年だ。 二〇二〇年は子年。干支で言えば

化しようとする状態をさす。庚は更 植物の成長が止まって新たな形に変 に通じ、改まる、入れ替るという意 「子」は十二支の一番目で、土中

は頭の大きな赤ちゃんを象っていで発芽したまさにその瞬間。子の字

水」という互いを生かす「相生」と「水」にあたり、この二つは「金生**。 「水」にあたり、この二つは「金生**。 いう関係とされている。 さらに「納音」という物差しで見

とでも、生まれ変わったつもりで 動の精神力を持ち、物事をやり遂げ チャレンジしてみる。そんな新たな 今までできっこないと思っていたこ ていく」そんな年でもある。 いう年にあたり、「頑固なまでの不 ると、今年と来年は「壁上土」と 自分の中に秘めた志があるなら、

健康に留意していただき、充実した ぶりに京都で花展をしたいと考えて いる。今年はその準備もしなければ。 流派の皆さんと力を合わせて、十年 に出て、来年で三百三十三年になる。 年となりますように。 「立花時勢粧」が一六八八年に世



黒花蝋梅の黄葉

櫻子

花器 陶コンポート 水仙(彼岸花科) 黒花蝋梅 (蝋梅科) シクラメン(桜草科)

花材

ら3月の花。水仙も地中海沿岸が原 ている。そんな想像をしながらいけ ち葉が敷きつもり大地を温めてくれ いているかも。周りには色づいた落 産地なので、こんなふうに一緒に咲 シクラメンは地中海地方の11月か

良い香りがする。葉には光沢があり 美しく黄葉する。 で初夏に咲くチョコレート色の花は クロバナロウバイはアメリカ原産



横から見た奥行き

不思議な力 櫻子

私にとって特別な出逢いになった。 くり。過去に一度もいけたことのな のだ。その干支と一緒にいけてと。 ずに選んで使い後で気がついてびっ らも鈴木健司作だが、そうとは知ら い器なのに。きっと器が私を呼んだ 表紙の花の器と干支の置物はどち



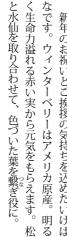
年賀のいけばな <表紙の花>

櫻子

梅擬「ウィンターベリー」(黐の木科) 水引草の紅葉(蓼科)

水仙(彼岸花科)

新年のお祝いとご挨拶の気持ちを込めたいけば 俵の鼠(陶・鈴木健司作)陶花瓶(鈴木健司作)





バンダと水仙? <2頁の花> 仙溪

実葛・美男葛(松房科)バンダ(蘭科) 水仙(彼岸花科)

陶花器

くれた。この3者のどれかが1つ欠けても何か物 含めて、3作の対比が気に入っている。 私は3種、健一郎は2種。それぞれの器の選択も 足りない。表紙から2頁にかけて、副家元は4種、 カズラが加わると不思議にしっくりとおさまって 水仙にバンダだけでは少し「?」だが、ビナン



横から見た奥行き

横から見た奥行き

花材 薮椿 (椿科) 水仙

<3頁の花> 健一郎

花器 陶花器

水仙 (彼岸花科)

だ。格の見合わない花と生けてしまうとたちまち の格にみあうほどの相手を見つける事が難しいの 取り合わせる花が見つからない場合が多い。水仙 とくる取り合わせである。水仙を生ける際ともに に花の魅力が互いに発揮されないのである。 椿に水仙。実際に見た景色では無いがしっくり

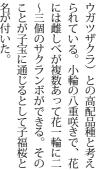


横から見た奥行き



師範会研修会 「寒桜の生花」

参加 会場 会期 46 名 六角会館 11月24日(日)



重で蕾はピンク色。冬桜は白色一重 は再び多くの花が咲く。 ちなみに十月桜は八重または半八 秋から冬に少し花を咲かせ、春に

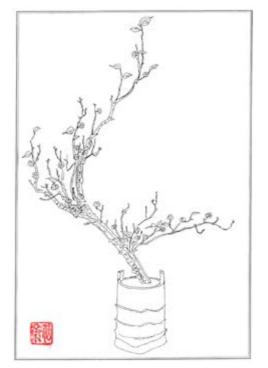


寒桜は難しかったかもしれないが、 も参加する研修会の花材にしては、 くなんとか三本で形にしてもらっ ゆっくり丁寧に枝を撓めて、とにか あまり生花を稽古していない人

揃えられるかを身につけることが肝 さ、枝の撓め方、どうすれば足元を 本数で、基本の形、役枝の出口の高 いけられはしない。まずは少ない 誰でもはじめから父の絵のように

産のシナミザクラと日本のサクラ 多いようだ。コフクザクラは中国原 (コヒガン又はエドヒガン又はジュ つかの品種があるが、「子福桜」が 寒桜と呼んでいる切り枝にはいく





3

図 ①

軒の合真の立花。合真は婚礼の席 で立てる特別な様式で、それに相 とされてきた。第八十五図は冨春

1

2

3

(5)

る。 紐ぎ

> 作者は服部三郎右門となっている ト 6 5 6) 色の行」(テキスト663)にも 初版では作者が書かれていな 第九十図「竹の胴」(テキス

同じ器が使われているが、どちら

と第九十八図

「杜若一

図⑩は鐶耳。

は金属の輪。

遊鐶と不遊鐶がある。図⑪は遊鐶。

行き

帯状の耳が器の口の端から出て腰 ト662)にも使われている。 図⑦の器は「耳口」と呼ばれる。 図⑥の器は第三十九図(テキス

に繋がる。

図⑧は器の形も耳の形も独特で

応しい器といえる。 **図** ② 藤の花

(4) (10)

様々な形の耳

ある。

第六十三図「苔松に藤」

0)

次郎兵衛好み

の器といえるか。 も桑原次郎兵衛作。

図⑨は冨春軒作の 珍しい耳の形である。 鐶

菊一 色

の

と「行の対の花」に使われている。 宝袋を模ったものと考えられ 第十六図の立花は萱草の真。 第八十二図(テキスト615)

第十六図 テキスト No.622・668

第八十一図 テキスト No.615・638



第七十三図 テキスト No.653



第九図 テキスト No.622

テキスト No.657

(6)

第八十五図

テキスト No.675

第五十四図 テキスト No.639

第二十九図



第六十三図 テキスト No.661



第百四図 テキスト No.672



第二十六図 テキスト No.663

「星景写真_

郎

うような写真を撮ることはできない そうして長い時間をかけて光を集め 真を撮るよりも多くの時間がいる。 こす。太陽が沈むと暗くなるため、 ないが、灯りのない自然と近い場所 して残すことができる。なかなか思 るので目視できない星でさえも像と 間がかかるのだ。そのため日中に写 光を集める時間が長くなる。シャッ だ。その場にある光を集め、像に起 で満喫する夜景はやはり格別だ。 京都の町中から眺める夜空も悪くは 言いながら模索してるのが楽しい。 が、あーでもない、こうでもないと ターを切ってから、下りるまでに時 で寝転がっていた。写真は光の芸術 系写真を撮るべく、旅館の前の砂浜 小豆島で一泊した日の夕食後、星

実物との差異に驚く事もしばしばだ 思い出す装置として充分な活躍をす 来栄えを大きく左右する。絵画と違 をフレームの中に入れ、何をどこに えるのも面白い。星を山と撮るのも か難しく、記憶の中の写したものと いオーラまで表現することはなかな 配置するか。写真は個人の意図が出 いいし、星だけで撮るのもいい。何 るだけでなく、どのように撮るか考 るだけだったが、実像として残し、 カメラを買うまではただ眺めてい 一瞬よりも早く、像が撮れるの

> 描いていると寝る時間が無くなって がいい。絵画だと一晩に100枚も

世界に浸れる。時間が経つにつれ少 るので寝っ転がると心ゆくまで星の 立って空を見ていると首が痛くな

雲の動き、潮の匂い。幼い頃からな 目が慣れるのか、闇が深まっている に感じる。波の音、月のクレーター、 からない。何も考えずただひたすら のか、あるいは両方ともなのかは分 しずつ星の数が増えていく。暗闇に

ぜか星を見るのが好きだった。だが

計し分析しようと試みる事である。 うだ。波の音を理屈で解釈する行為 とすると、どうも肩透かしに合うよ う。意識して自然を能動的に受信し すればする程自然からは離れてしま を感じられるかと言うとそうでもな ている事も楽しくて好きだが、自然 分からない事が多すぎるが故に考え は、目の前で起こっている事象を集 い。自然の事を集計し分析しようと 意識して自然を感じとりに行こう

る気も、星を繋ぐ気も一切ない。た 当てたり、先人が繋いで名付けた星 星好きを公言する人と話してもなぜ 何の関係もない。僕は星の名を覚え か話しは合わない。星に詳しい人達 の説明を僕にしてくれるが、僕には 見える星を指差して名前を言い

だ見ているのがいいのだ。 見返りを求めず純粋無垢な心で、頭 の中を空っぽにして呼吸をする事も ただそこにいる事が大切なのだ。



家元の帰りを待つレモンちゃん。 健一郎撮影。

見を得ようと前のめりになっても決 も自然の一部であるからだ。だがそ 追いかけても、追いつけないのは僕 づきしか教えてはくれない。より知 てはあまりにも脆弱すぎる。 れは追いかける事を止める理由とし して解釈し得ない。追いかけても、 自然はいつでも身の丈に合った気 り、心を満たしてくれる。

忘れた時に自然が心の中に染み渡

まっているのか自分の中に残るもの 期待、あるいは、見返りを求めてし に行く行為で感じる自然は、どこか



姫南天と水仙

仙溪

花材 姫南天 (目木科) 水仙(彼岸花科)

くく、葉を楽しむ花材だ。 で優しい印象を受ける。実がなりに ンよりも葉が小さく締まっているの ヒメナンテンは中国原産。ナンテ 花器 陶花器 (小川欣二作) 小菊 (菊科)



仙溪



るまで、地道なリクエストを続けた の姿を同じように思い描いてもらえ たいとのこと。こちらの欲する自然 うことで特別にお願いして取り寄せ なら「立花時勢粧」の絵のような暴 い。なんだか面白くなってきた。 花になるのか是非いけた花を見てみ なひねたスイセン。生産者もどんな てもらった。普段は出荷しないよう れたスイセンもいけてみたいねとい イセンを必ず使うことにした。それ 今月号は健一郎の発案で全作にス





横から見た奥行き

除真立花

水仙一色

仙溪

著義の葉(菖蒲科)寒菊(菊科)

銅立花瓶

健一郎が卒論のテーマに「立花時

重んじる立花に異を唱えて、流祖が勢粧」を選び、江戸時代前期、型を る世界が広がっている。「植物が本 もっと奥の深い自然の妙を表現でき 術が身についた先にはましだいでいけることを目指すけれど、型と技いけることを目指すけれど、型と技 てくれた。 後世に伝えようとしたことを検証し いけばなではまず初めに型通りに



水仙一色 二株砂物 健一

郎

素直な水仙を自然にある風合いに生ける

在材 水仙(彼岸花科) 寒菊(菊科) 小菊(菊科)

新砂鉢 「一種の葉(菖蒲科)

というでもなればとも考えている。 したものである。自然を一つの器に再現 したものである。地に根を張っている姿を かけばなと向き合っていると自然に身に いけばなと向き合っていると自然に身に いけだなと向き合っていると自然に身に いけだなと向き合っていると自然に身に し的存在であれればなと思う。将来確実 しの存在であれればなと思う。将来確実 しの存在であれればなと思う。将来確実 しの存在であれればなと思う。将来確実 しの存在であれればなと思う。将来確実 しの方にでもなればとも考えている。

水仙郷の水仙を初めて見た時の衝撃は水仙郷の水仙を初めて見た時の衝撃は今でも忘れられない。標高608mのかが高いだけ出した葉。お花屋さんでは特から心だけ出した葉。お花屋さんでは特がら心だけ出した葉。お花屋さんでは特がら心だけ出した葉。お花屋さんではだって見る事ができないうねった数数の決して見る事ができないうねった数数の決して見る事ができないうねった数数の決して見る事ができないうねった数数のないが、自然光で見る植物のなんと美しないが、自然光で見る植物のなんと美しないが、自然光で見る植物のなんと美しないが、自然光で見る植物のなんと美しないが、自然光で見る植物のなんと美しないが、自然光で見る植物のなんと美しないが、自然光で見る植物のなんと美しないが、自然光で見る植物のなんと美しないが、自然光で見る植物のなんと美しないが、自然光で見る植物の大きないが、

事で形を作っていた。針金を用いる事でまでほとんど全ての葉に細い針金を通す普段は水仙の立花を立てる際は葉の先

(菊科) 実は変わりない。 ちれたとしても人が作った自然である事(菊科) ちれたとしても人が作った自然である事

いけばなにおいての匿名化は必須であると考えている。いかにその作品から自ると考えている。いかにその作品から自ると考えている。いかにその作品から自ると考えている。いかにその作品から自ると考えている。いかにその作品から自然のはかけている以上は絶対に不可能な事だが、限りなく匂いをゼロに近づける事はできるはずだ。今回の立花の挑戦もその一環である。お花屋さんに特別に頼んでもらった面白い葉は、針金を使わずして自然のはみ出しものを表現できるのだからこれ以上嬉しい事はない。

花を野菜に例えると分かりやすいかもれない。最近、奇形と呼ばれる野菜達しれない。最近、奇形と生かした料理屋さきた。もしその奇形を生かした料理屋されがあれば行ってみたいものだ。規格品の規定からもれた野菜のみを使った「奇の規定からもれた野菜のみを使った「奇形の野菜レストラン」絶対に流行るはず形の野菜レストラン」絶対に流行るはず



斜め横から見た奥行き



木瓜 (薔薇科) 生花二種挿し

草型 健一 郎

木瓜

煤竹竹筒 水仙(彼岸花科)

横から見た奥行き

定価五五〇円(消費税込) www.kuwaharasenkei.com いけばな作品写真:宇佐美宏

いけばな 桑原専慶流 2020年 2月号 No.680

編集発行 京都市中京区六角 烏丸西入 桑原専慶流家元





小手毬 エピデンドラム

<表紙の花> 健一郎

エピデンドラム (蘭科) 花材 小手毬 (薔薇科)

花器 陶花瓶(近藤豊作)

ど飲み、賑やかに咲いてくれた。 お与った投げ入れです。古典のお花もらった投げ入れです。古典のお花が多い家に彩を副えるべく生けた。 立派な小手鞠で思うがままに器にいれ翌 と小手鞠の思うがままに器にいれ翌 と小手鞠の思うがままに器にいれ翌

横から見た奥行き







流枝の日光椿が華やぎを添えている。

遊鐶耳竹節銅立花瓶

蝋梅(蝋梅科) 松(松科)

枇杷(薔薇科) 椿(椿科)

横から見た奥行き

蝋梅の立花



五葉松の立花

<2頁の花> 山本慶智

五葉松(松科) 南天(目木科) 紅柘植(柘植科) 石化柳(柳科)水仙(彼岸花科) 椿(椿科)

南天の紅い小葉が胴で良く効いている。

花器 天女文銅花瓶

小菊(菊科) 葉蘭(百合科)

横から見た奥行き



ラッパズイセンの白花

スノーフレーク(彼岸花科) チューリップ(百合科) 喇叭水仙(彼岸花科)

花器 陶水盤

丸葉ルスカス(百合科)

新年を迎えてお正月が過ぎ、休んでいた花市場が稼動しだすと、一斉に春の切り花たちが花屋に並ぶ。ナノハナ、チューリップ、ラッパズイセン、フリージア、スイートピー。近頃はユキヤナギやコデマリなどの香の花木も手に入る。家の外は木枯らしが吹いていても、家の中は冬の花と春の花が季節を超えて共存して花と春の花が季節を超えて共存してれる。

丁度今の季節を感じる花もいいし、季節の先取りの花もいい。白いラッパスイセンに白いスノー白いラッパスイセンに白いスノーカレーク。同じ色の花を2種類組み合わせることはあまりしないが、いけてみると花色が印象深くなってくれた。花色の組み合わせを工夫できれた。花色の組み合わせを工夫できるのも、春ならではの楽しみ。





富春軒初春の会 1月18日・19日

健一郎も投入をいけ、立花を手伝い、花手前の介に細やかに祝宴を演出してくれている。今回から私で立花を立ててお迎えし、副家元が料理屋と共自宅での新年会も6回目になる。流派の先生と









添を担当してくれた。 花手前でいける生花も毎年変えて 花手前でいける生花も毎年変えて 水仙、万年青、今年はやや遅めの会 別ということもあり、雪柳とチュー リップで春の兆しを感じてもらっ た。

てもらった。 でもらった。

福引きは花九、花政、花フジからの寄せ植えや、公長斎小菅さんからの竈花生けと花、市川博一さんの青白磁花生けと花、花手前の花と筒、そして私が描いた色紙が景品に。そして私が描いた色紙が景品に。はり清さんの京料理、紫野源水さんの和菓子、美味しい日本酒、はずむ会話、私にとっては至福の二日間む会話、私にとっては至福の二日間だった。

ら。 今年もいい仕事ができますよう











美味しい食事」

郎

味を少しでも出したいのだが、利用 こだわりを持ち自分の引き出したい 出来るわけではない。時間をかけ う事になっている。職員を含め11人 ないので、ある程度で見切りをつけ 者の方をお待たせするわけにもいか ての調理なので2時間丸々使う事が もちろん利用者さんの対応と並行し 盛り付け、配膳するというものだ。 分ほどの一汁三菜を2時間で調理、 なければならない。 では職員の手料理を利用者に振る舞 護)で働いている。 グループホーム ループホーム(認知症対応型生活介 より根本から捉える目を養うべくグ 生け花の活動と同時に、生け花を

中に残り、味わえるよう餡掛けに 覚の低下が見られる方には味が口の 少しでも見栄えを良くしようと色を ある。利用者の方の期待も大きい。 質を控えた中でおいしいものを、味 美味しいものを、糖尿病の方には糖 も工夫するとご飯は美味しくなる。 出してみたり、盛り付け方ひとつで し、嚥下機能が低下されている方に 心臓が悪い方には塩分を控えた中で ならないくらいの大きなイベントで からしてみれば、私達とは比べ物に 時間をかけられないのにもかかわ 1日3回の食事は利用者の方

> 時間はあまりにも短すぎる。 になるかもと考えると2時間と言う 出来るのだろう。これが最後の食事 はムース食を提供するわけだが、こ 後 何回食事をする事が

は好例である。 りと反応も飾り気がなく純粋な食事 好い。ソースのついたお皿を舐めた がったりと、いくつかの作戦がある。 認知してもらう事で次の一口に繋 口を口まで運び、美味しいものだと 味しそうに食べてみたり、最初の一 の前で大きな口で笑顔いっぱいで美 食事があまり進まない方には色々な 亡くなられる方達を見送ってきた。 なくなると途端に衰弱し痩せ細り、 ない。何かの原因で食べる事ができ り、これを無くして生きる事はでき 維持のために最も基礎的な事であ 美味しいものを食べている時の姿は 方法で食べてもらおうと試みる。目 食べる事は生きる事である。生命

のイメージが定まっていないと何と 足して調節しようとする。理想の味 近づけようと酒を足したり、砂糖を つくようになった。味見を繰り返し とか餡掛けのトロミの容量も見当が 量のみりんで甘さ、照りが出てくる ものが分かってくる。どれぐらいの らえていると、少しずつコッという て作っていると、自分の好みの味に お昼ご飯だけでも週4日ほどこし

> の高さは渗み出るものなのだろう まう。和洋中どのジャンルを作って を作る際に掲げる理想の具体さ、質 る。面白い事にその料理の全てにそ も質の高い調理をこしらえる人がい る。それぞれの分野でその人が料理 の人らしさはやはり感じるのであ も形容し難いボヤけた味になってし

現実味があるものなのかもしれた エッグ、ジャーマンポテトを教えて 時ごろに目が覚め、台所の近くを通 幼い頃祖父とよく話していた。朝6 れる。それは夢で見るその人よりも その人が作った味を引き継ぐとその と祖父がまだ隣にいるかのようだ。 ピラフとベーコンとスクランブル 程を知ってしまったのだ。大好きな べていた朝ごはんが出来るまでの過 ギリに起き、半分寝ている状態で食 姿が忘れられない。登校時間のギリ 2人での朝食の用意をしている後ろ ると物音が聞こえた。朝8時からの のを食べ続けられたら良いな。」と もらった。今でも家で作って食べる 人の存在がありありと思い出させら 「生涯にわたって自分の好きなも

の日の下ごしらえをしている。家元 る。次の日が忙しければ夕食後に次 い時は3時間かけていることもあ 副家元が作るご飯は2時間から長

> 思う。その時間が家族一人一人の心 の豊かさに大きく影響している。 ために使っている時間は多い方だと ると家族で食事をするという行為の と2人でする食器洗いの時間も入れ

生まれる。 味しく食べるための努力をしている が下がってしまう。でも、 すぎて毎日の食事の重要度、優先度 なければものの5分で満たす事がで れると初めて人に働きかける余裕が 状態になれる。そして自分が満たさ と、常に心身ともに満たされている 分1人での食事の時であっても、美 を楽しみ、友達と出かけたりと忙し きるだろう。多くの人は学び、娯楽 お腹を満たすだけなら手段を選ば

たとえ自

さを理解したくなったのだ。 は違うものになっていた。味の複雑 てから食べた味は、今までの料理と ようにしている。調理の過程を知っ 自分の好きなものを少しずつ覚える おせち料理、日常的な家庭料理まで てもらっている。 今は副家元の料理を少しずつ教え 塊肉の焼き方や、

けようが真似できないものである」 のお金を出そうと、無限の時間をか ある人が言った。「名作とは無限

た失敗のない誰の口にでもあうよう 知らない人、あるいは機械が作っ

作られた食品を食べるより、大切な 各家ごとの名作である。 人を思って情が込められた家の味は

を聞く習慣はなくなりそうにない。 た!」の一言の前に、今日の晩ご飯 毎日家に帰り「ただいま帰りまし





手作りのお重で迎えるお正月



満作の生花

<9頁の花> 仙溪

花材 満作 (満作科) 生花草型副流しせいかでう

咲く」ことからマンサクと呼ばれる 入ったので生花にいけた。ほのかに る。太枝の立派なマンサクが手に 黄色い細長い花弁が4枚出るが、数 ようになったそうだ。一つの花には シナマンサクではないかと思う。 甘い香りがあり、花も大きめなので 早春、ほかの花に先立って「まず 枝いっぱいに黄色い花が咲いてい

るに違いない。 出会ってみたい。きっと心を奪われ るように見える。 冷たい山の中で満開のマンサクに

横から見た奥行き





いけばなプロムナード 京都嵐山花灯路2019

<9頁の花> 仙溪

会期 12月18日~22日 会場 二尊院門前

花材 ビロウ (椰子科) (檜科) (檜科) グロリオサ(百合科)

京都2020 ジャパンスピリッツin

<10頁の花> 仙溪

会期 会場 ホテルグランヴィア京都前 12月29日~1月5日 (京都駅ビル2階)

花材 花型 生花 二種挿し 蝋梅(蝋梅科)

花器 陶花器 (阪野鳳洋作) 椿 (椿科)

檳榔の枯葉 仙溪

掌状に広がり、葉先は細かく裂けて 亜熱帯の海岸付近に自生する。葉が ビロウは椰子の仲間で東アジアの



作られている。 ではクバと呼ばれ、今でもクバ笠がではクバと呼ばれ、今でもクバ笠が縄にされる。沖縄

さらに天皇の即位式の前に禊ぎ祓いのためにこもる百子帳という仮屋 ロウの葉は風をおこすことができる ので、邪気を払うと考えられていた のだろう。 そんな謂れがあるとは知らずに二 そんな謂れがあるとは知らずにご

いる。
そんな誰れがあるとは知らずに二
も相応しい選択だったと感じ入っても相応しい選択だったと感じ入って

一緒にスヤスヤ。



花器 陶花器 連翹(木犀科) 透かし百合2種(百合科)

花材

がほぼ一年中花屋で売られるように なった現代では、夏以外であっても い取り合わせになることがある。 花色の選び方といけ方によって、良 作例の2色のスカシユリもそれぞ 百合は本来夏の花だが、園芸品種

生かしたい。 るさがある。自然の景色を思わせる 代的な雰囲気のいけばなで持ち味を ようないけばなには向かないが、現 な風情はないけれど、溌剌とした明 れにいい表情を見せてくれている。 園芸化された花には野の花のよう

色の輝きの中で、もう一方のスカシ ユリの臙脂色と葉の緑色が際立つ。 レンギョウとスカシユリが作る黄







いけばな 桑原専慶流 2020年 3月号 No.681

編集発行 京都市中京区六角 烏丸西入 桑原専慶流家元





辛^z 夷_し アイリス <表紙の花> 仙溪 椿

アイリス (菖蒲科) 花材 辛夷 (木蓮科) 椿 (椿科)

そして手にした枝に愛着を覚える。 そんなことも私が花をいける理由の ずなのに毎回新鮮な驚きを感じる。 香りがした。何度も経験しているは コブシの枝を切るとほのかに良い 花器 魚文陶花瓶

横から見た奥行き



桜と躑躅の立花

<2頁の花>

仙溪

花材 桜 (薔薇科) 躑躅(躑躅科)

都忘れ(菊科) 格(椿科) 松(松科)

花器 銅立花瓶

白い花が清らかな印象のサクラで



京都の春の山景色。 京都の春の山景色。

横から見た奥行き

出逢い花 (36)

<3頁の花> 仙溪

橋(蜜柑科) たちばな みかん (薔薇科)











節分の豆まき

<4頁上の花>

健一郎

花材 蝋梅科) 台杉 (杉科)

「お兄さん、豆!!!」誰よりも 「お兄さん、豆!!!」 誰よりも がましく大きなエコバックの口を広げている副家元が上からよく見える。福を受けるにはある程度、主体 おる。福を受けるにはある程度、主体 いっぱんじん いっかもしれない。

無くならない仕組みらしい。で、毎年楽しみにしている人が多い。豆を貰う立場から、福をまく人にならさせてもらえたが、素直に福のお居に入った溢れ出さんばかりに頂いた福を受け渡せた。福の仕組みにつた福を受け渡せた。福の仕組みにしている人が多い。で、毎年楽しみにしている人が多い。

びと称して手先の器用な知り合いに

そんな今年の節分に合わせ、花游

ばしているようなものかもしれなの会場は五倍にも多くの人が手を伸を欲しているのとするのならば、それ人が伸ばす手にその家族分の豆



菜の花×てんとう虫

<4頁下の花> 健一郎

所に住んでいるのだろう。

ダイスギが合っている。鬼はどんな無骨な花器に蝋梅の枝振り、枯れたに花を生けた。ヘラでぶった切ったこしらえてもらった切り絵の鬼と共

去年に見た春の景色を花と器で表現した。実際に見たてんとう虫は一現した。実際に見たてんとう虫は一時の小さな発見をただの気づきだけで終わらせるのは少しもったいない。どれほどの火になるかわからないが、空気を送り込み、火種を大きくしなければ、すぐに忘れてしまい、火も消えてしまう。

で作る作品は新鮮さに長けている。で作る作品は新鮮さに長けている。花遊りなくなるので若いナノハナも混ぜりなくなるので若いナノハナも混ぜでをする際に細工を頼んでいる知りでもアイディアをくれる。全て自分でもアイディアをくれる。全て自分でもアイディアをくれる。全て自分でもアイディアをくれる。

て。 りましょうか。」 ーどうも、 緒 に は お 風 じ め 呂 ま に 入 l

郎

お風呂に入りましょうか。 「どうも、はじめまして。 一緒に

思える。初めましての人と違和感無 知症の方の介護がつくづく楽しいと くお風呂に入るレベルにまで心を接 き出す力が介護には必要である。認 う。しかしながらそこで YES を引 御一緒に」と答える人はいないだろ 近させ、お風呂にまで入るというの に、こんな事を突然言われて「はい、 見ず知らず20やそこらの兄ちゃん

手伝ってもらうのはどれ程の辱めな 芽生える前の赤ちゃんの排泄、入浴 性が高く、手伝ってもらうことをた 覚えてしまった人からすれば、 きていた事が難しくなり、羞恥心を めらってしまうものである。自我が と入浴。ただでさえ、プライバシー 行為とは違い、以前までは1人でで んて経験は今まではなかった。排泄 見ず知らずの人とお風呂に入るな

うが、ある程度の答えやマニュアル なケガに繋がってしまうので気を使 は用意されている。一方で心のケア 肉体的な介護は少しのミスが大き

> にその日のコンディションで声の掛 は十人十色で、正解もない。おまけ

る。僕も間違いなくそうするだろう。 れば暴力で感情を吐き出す人もい 連れて行かれようものならば強い拒 ればいけない事は分かってはいて きたくないはずだ。浴室へ行かなけ るので、絶対に便所にも浴室にも行 をしていたとする。トイレ、浴室に もしれない。もし仮に、排泄の失敗 否をするはずだ。暴言を働く人もい いくと自分の失敗を露呈する事にな お風呂に入るだけならまだ良いか **羞恥心が勝る。もし、無理やり**

ればならない。 緩和させ注意を他の事柄に移さなけ 瞬間的にその人の懐に入り羞恥心を ちが悪い。気分も沈んでくるはずだ。 にもつながるが、何よりもまず気持 排泄の失敗は、放っておくと病気

う事は難しくなる。 の低下を遅らせることが出来るの ちに身体を鍛えておくと、身体能力 体は下り坂に向かっていく。若いう 事が少しずつ増えていき、やがて身 を重ねれば重ねるほど体の衰えに抗 産声をあげてから身体的にできる 身体を動かすことは大切だ。歳

近頃、 人間はそんなに体を動かさ

> 懸命に走っている光景を目にした なった。今や座っているだけで世界 なくても生活する事ができるように える発想に至ったわけである。 生きる道ではなく、周りの環境を変 われている。周りの環境に合わせて 知能力の劇的な変化が起こったと言 7万年前の認知革命以降、ヒトに認 からヒトへの境目は分からないが、 だろうと驚かれるに違いない。猿 代の祖先達がスポーツジムで人々が 中を飛び回れる時代なのだ。石器時 ら、なんておかしな事をしているの

球の直線上で生活をしている。 や文化。祖先達によって作られた地 を減らすための工夫の結晶である街 代になったのは。現代は肉体の負担 はじめに面倒だと考えたのは。お肉 を狩りに行く時代から買いに行く時 いつからだろう。ヒトが動く事を

のだが。 らいの能力しか持ち合わせていない ある。もっとも、僕は外れた自転車 りも自転車ぐらいの方が好きなので は知らない。そのせいか、自動車よ こにあった物の作り方も直し方も僕 のチェーンをなんとか取り付けるく ら始まっている。生まれた時からそ 今ある便利は、祖先の面倒臭いか

ほど、発達していき衰えることは無 肉体に引き換え、脳は使えば使う

> 例の一つに認知症というものがあ うと考えるのだが、脳に障害が起こ うのである。 り、認知機能に障害が起き、理解力 る。脳細胞の死滅や活動の低下によ や判断能力にも大きく影響してしま れば、低下の一途を辿るのである。 いとされている。ならば脳を鍛えよ

当たりにできる。面会に来られた子 供にその片鱗が垣間見えた時には、 と、取り繕いのない純粋な姿を目の 情深い人、せっかちな人であったり 心地よく過ごしていればいい人、愛 いる人、異性に気がある人、自分が している。常に人に感謝して生きて かという物が分かりやすい形で存在 根源的な、その人がどう生きてきた の方達と生活していると、認知機能 に障害がある事は確かだが、もっと グループホームで認知症の利用者

いが成績発表のような物なのかもし か考える作業でもある。 優劣こそな 症になる姿を考える事は自分が何者 で少し嬉しくも感じる。自分が認知 遺伝という物を自分が発見したよう

ない所にまで心を接近させるのであ 族ですら踏み込まなかったかもしれ この仕事は、いつも新しい価値観 由は利用者との心の距離である。家 自分との発見で溢れている。その理 僕より4倍生きた人達と生活する

> る。 隠し事なんてない。

美人であると答えた方に、「もし意 る人。美しい心であると答える人。 歩していると、答えが出ないまま帰 地悪な美人さんがいたらそれは美人 いて尋ねると、美人である事と答え する事も、される事もある。美につ 設する事になる。 じゃない」と答える。手を繋いで散 ですか?」と尋ねるとそれは「美人 よく自分の考えている事の相談を

はできないが、私と比べると死に近 重みがある。死の体験談を聞くこと を目前にした人の言葉にはやはり、 かやはり生死に関わる話が多い。死 く、当事者意識が強い方の話は具体 話をしている中でも、年齢のため

したケアをできたらなと考えてい できるだけ正確な感情を想像し、適 真正面からその人を知り受けと その人の顔色、仕草から心情を

事ができるだろうか し、その姿をより美しさを引き出す ぬ植物の声を聞き、その特徴を理解 この力を磨いたその先に物を話さ



立花時勢粧の器 4

「立花秘傳抄 四・花瓶の事」(テ

キスト619参照) には 立花瓶のルーツともいえる中国の が添えられている(図①)。そこで、 と述べられていて「唐の器」の絵 青銅器の歴史をみてみよう。 と名付くる物なし。今日本に用 いる所、唐の酒器なり。」 「花瓶図を考えるに、唐に花瓶

般や周の時代、

青銅は貴重な

では紀元前 3100 年頃に石器時代 から青銅器時代に移行したと考え 青銅とは銅と錫の合金で、中国

1

耳片

查

する。 徐々に青銅の鋳造技術が発達し、 前 400 年頃)が青銅器時代に相当 その後の周、 殷(商)王朝が成立してからは、 られている。紀元前 1600 年頃に 春秋時代まで(紀元

せる獣面装飾が施されているのも の交信の場に相応しい畏怖を抱か それらの表面に邪気を払い神霊と 作った。宗廟に酒を供えるための として主に祭祀の器物を青銅で 金属で、王や貴族が権力の象徴 特徴的である。 尊」も青銅で多く作られている。

2

就并坐也古之

てた最初の思いがどんなものだっ きるが、広口の器に敢えて花を立 のためと理由を見つけることがで 何故だろう。今では水際の美しさ た口の広がった酒器を選んだのは のと考えられるが、尊や觚といっ れら中国の青銅器に立てられたも いる(図②)。初期の立て花はそ 伝来の器物が絵入りで紹介されて 彙」にも「尊」や「觚」など中国 期に出版された百科事典「訓蒙図 時代は下って日本の江戸時代前

鉢物砂倉以今器奈之古

やまのさない

さけいれく

代から神霊との交信に使われた祭 祀用の酒器を使うことに意味が たのか。もしかすると、中国で古

あったのかもしれない

れたとき、なぜ広口の器だったの 立花よりも以前。立て花が生ま

い。

花のルーツについて探ってみた か、なぜ藁の東に立てたのか。立

訓蒙図彙

各編、日葵衛 古之前華今為

され 在水野元素水之器之小

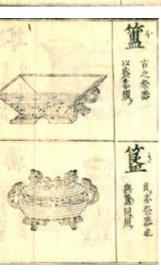
中村惕斎によって寛文6年(1666年) 花草を絵と文で紹介している。 天文・地理・居処・人物・身体・衣服・宝貨・器用 れた図入り百科事典(類書)。 畜獣・禽鳥・龍魚・蟲介・米穀・菜蔬・果蔬・樹竹 全20巻。 に著さ











図②:国立国会図書館デジタルコレクションより転載



饕餮文の青銅器

<9頁の花> 仙溪

花型 草型 単端し 花型 草型 智流し 花型 草型 智流し ではたままで、 では、水木科) では、水木科)

清らかな力の象徴でもあると思う。現するいけばなは、悪をはねのけるを感じる。植物の力強さ美しさを表を感じる。



白川静「新訂字統」より引用

横から見た奥行き



黄花の金魚草

<10頁の花> 櫻子

花器 陶コンポート

キンギョソウにはいろんな色がある。色や大きさでとり合わせる相手る。色や大きさでとり合わせる相手も変わる。鮮やかな黄色のキンギョソウは春の緑と相性がいい。白いンギョソウと一緒に上へ上へと伸びンギョソウとしているようだ。

横から見た奥行き



桃の古木

桃(薔薇科) 仙溪

花器 銅花器

切り花の桃は「矢口」という品種



が主で、産地で何度も枝切りするうちに幹は太くごつごつとしてくる。珍しく幹ごと売られていたので重量のある銅器でいけた。長年、若枝を提供してくれた親幹への敬意を込めて、艶やかな葉の純白の八重椿を添えた。

横から見た奥行き



と一緒に。 エジプトの猫の女神「バステト」 レモンだより



山茱萸の立花

健一郎

山茱萸(水木科)

菊 (菊科)

花器 陶花器 (大谷焼)

て、良いと思ったら、良いと思った その時の枝ぶりや花のつき方をみ

分の呼吸を山茱萸の呼吸に合わせて がらゆっくりと。喜びである。時間 りと枝どりをする。バランスを見な 切り花を根付きの大木にも見せる事 吹き返させるかのように。まだまだ ができるかが、花を触る者としての いく。切り花になった山茱萸の息を に居れるかのようだ。ゆっくりと自 がかかればかかるほどその花の近く 本の木の迫力にも、遠く及ばない。 役枝一つ一つを考えながらゆっく



定価五五〇円(消費税込) www.kuwaharasenkei.com

いけばな作品写真:宇佐美宏

いけばな 桑原専慶流 2020年 4月号 No.682

編集発行 京都市中京区六角 烏丸西入 桑原専慶流家元





毎日花から元気をもらっている。

薇と豆の花

<表紙の花> 櫻子

花材 薇 (薇科) エピデンドラム(蘭科)

この花をいけたのは3月初旬で、 花器 赤ガラスコンポート

豆の花 (豆科)

花材 山吹 (薔薇科) 紫蘭 (蘭科) 色合わせも生け花をする上で大切 花器 環耳陶花瓶(竹内真三郎作)

<2頁の花>

健一郎



ける。副家元が選んでくれた敷物で 印象が変わる。 んとして若々しく凛々しい印象を受 紫蘭は自然の葉を生かして。しゃ



<3頁の花>

健一郎

花材 本桜 (薔薇科) 花器 紺釉陶鉢 椿「月の輪」(椿科) オクロレウカの葉(菖蒲科)

を出し、椿で留める。 わせる。本桜とオクロレウカが競い 若い青さがまもなく訪れる季節を思 いが、オクロレウカを出逢わせて。 本桜と椿の2種だけでも格好は良





ドラセナ

<4頁の花> 櫻子

花材 ドラセナ・ソングオブインディア (電舌蘭科) カーネーション (撫子科) スイートピー (豆科)

にとりあえず入れるのではなくて、のフサフサした豪華な葉。足元隠し 主役に見せたいと思う。 ドラセナ・ソングオブインディア

大輪深紅のカーネーションは茎も

横から見た奥行き



選択力』

生産性が上がると物の選択ができる なくなると物の交換が盛んになり、 ようになった。 稲が伝わり、食物の貯蔵が可能に 動物を家畜化する。食に困ら

が溢れかえっている。酷いものにな からない機能が沢山ついた機械で物 ら長い月日が経った。何が何だかわ からない製品でさえあるほどに。 ると何をする為の機械だったか、 物がありすぎる時代と言われてか 分

さい。」なんてとても言えない。店 店員さんの顔はイキイキとしてい を投げかけてくる。店員さんには悪 たら充分です。とりあえずこれを下 あった物を提案したく、多くの質問 いいのだ。店員さんは僕に少しでも たとすると、少し悪い気がするのだ。 員さんが好きでその職業についてい る。僕が「必要最低限の機能が使え い気がないのは十分承知だ。だから して質問をされると困る。使えたら そこまでこだわりがないものに対

絶対に使わない機能だ。多機能は本 質の性能を曇らせる。あれば便利な 生活をより便利にしようと物を買 いつか使うかもしれない機能は 無くてもたいして困らない。

その一方で、 同じ用途のものは一

> その飲み物が1番美味しい形態の器 僕の「好み」がこの考え方に歯止め 好きな考え方ではあるが、少し違う。 だけで良いというのだ。単純明快で 水なんて飲みたくない。 は確かに存在する。湯飲みに入った をかける。人それぞれ好みはあるが に必要なのは住人の数だけのコップ とがある。飲み物を飲むという用涂 つだけで良いんですよと言われたこ

考える価値はおおいにある。 効果を鑑みれば一度身の回りのもを 飲むだけだが、自分にもたらされる 何で飲んでもいいわけではない。こ 味しいからだ。液体が漏れなければ マグで飲むミルクコーヒーの方が美 飲む時は、洗い物が増えようが大好 コップで飲むより美味しいのだ。少 みで飲む。湯飲みなのだが、何故か 飲むにも器が変わるだけで味が確か れが良いのだ。同じ物を食べるにも、 きな青磁のマグで頂く。なぜならば し余ったコーヒーをミルクで割って コーヒーを入れてしまう。他のどの に変わってしまうのだ。食べるだけ、 貝分が本当に好きで使っているかを 朝のコーヒーをお気に入りの湯飲

マーシャルや新聞などの広告であっ 倒され、選びきれない。そこでその や価格帯も様々で選択肢の多さに圧 選択を助けてくれたのが、TVのコ 新しい湯飲みを買うとする。

> 他の物とは違う特別なものになる。 品の印象を良くさせる働きがあり、 た。数多くの選択肢の中からその商

で選んだものなのだろうか。 果たしてそれは本当に自分が好き

けでよくなってしまった。 多くの商品の中から、おすすめの商 選んできたものの可否を判断するだ 品を選ぶ必要がなく、機械が勝手に はこの「おすすめの商品」のおかげ 品を提示してくれるものだ。消費者 なたにおすすめの商品」が表示され で、膨大なラインナップの中から商 履歴や購買履歴などを参照して、数 ることがある。これはAIが、検索 ネットで買い物をするときに、「あ

ちは、自分の知り合いやネットで活 強い人)の口コミに信頼を寄せてい 躍するインフルエンサー(影響力の こうして、選ぶことをやめた人た

は、すでに多くの消費者が認知して るものが欲しい」などといった欲求 いない」「みんながいいと言ってい 敗したくない」「選ぶ時間がもった 法は、「自分の感覚だけで選んで失 を信じて物を買う。こうした購買方 いる。だから信頼する友人や口コミ

が強いからである。

か て豊かさは、もたらされるのだろう

られたのなら大したものだが、 る。声を大にしてイチャモンをつけ ゆるイチャモンと言われるものであ 圧力に立ち向かうための武器がいわ じたことがあるだろう。そこで同調 自己の表現が億劫になりつつある。 人に流されやすい自分を誰しもが感 ここ最近、強い同調圧力のせいで、

テレビCMに演出効果があること

人の感覚で選ばれた商品に囲まれ

い声、心の中で呟いてもいい。

ばいいのだ。そして少しずつ培われ がなくともできる。わがままになれ ない事はない。 自分を見失ってしまうほどもったい に否定する。 上辺で人に合わせ続け た自分が、何が好きで何が嫌かを軸 物事を否定する力は自分の中に芯

来を限定させていく。 かろうが選択の一つ一つが自分の未 自分の決めた、大きかろうが小さ

くも無い仕事をしている意味が僕に きるアドバイスをしてみた。やりた を言う人だった。嫌な仕事なら放っ た。今は自分の好きな仕事をしてい は意味がわからなかっただけであ てしまえば良いのにという誰でもで いは、会うたびに仕事の愚痴ばかり よく登場する手先の器用な知り合 その後彼女は自分で仕事を辞め

> る。指輪作りの仕事だ。人間関係の な面白いお客さんがきはってんで、 退屈しなくなった。 といったぐあいに話を聞いていても りたい、こんな作業が楽しい、こん 話はほとんどなく、どんな指輪を作

けない。 こともリスクである事を忘れてはい 留まり続けているのだ。変わらない スクをおそれ、居心地の悪い場所に ている人がいると言うがそれはその 人の選択である。新しい事をするリ つ仕事を変えてもいい。嫌な事をし いつ住む場所を変えてもいい。

ではないだろうか。失敗をしても人 止め新しい選択をすればいいだけ のせいにできないため、結果を受け かげとも言い換えることができるの 自分で決めた事は全て、自分のお

れがいい」に変えるだけの簡単な話 かである。「これでいい」から、「こ ものはすでにそこにある。何を選ぶ れる力になると考えている。大概の 増えていく今の時代には必ず求めら 「選ぶ力」は選ぶ物がどんどんと

(1) 『慕帰繪々詞 巻1』より 覚如 13歳、延暦寺の宰相法印宗澄に天台を学ぶ。

3





慕^ぽき 絵詞は

の暮らしぶりが克明に描かれている。 で誰でも見る事ができるので、 ションで公開され、 模写されたものが『慕帰繪々詞』と 伝わる貴重な絵巻だが、大正時代に 鸞の曾孫にあたる覚如(1271~ して国立国会図書館デジタルコレク 1351) の伝記絵巻。 zff 室町時代初期に描かれた『慕帰絵 『慕帰絵詞』は浄土真宗の開祖親 (1351年) には、当時の僧侶 インターネット 西本願寺に · 絵の

それより130年以上前の描写とし いがあるかもしれない) て眺めることができる。(ただし慕帰 花伝書』が1486年とされるので、 最古の花伝書とされる『花王以来の さて、いけばなの歴史から見ると 1482年に作り直されて 巻7は足利義満の時代に 制作年代による描写の違

巻8には京都大原の勝林院が描か 本尊の阿弥陀如来の前机に枝を

挿した一対の華瓶が見える。(図89)

風俗が描かれ、鎌倉時代末期から南 の豊かさに思わず見入ってしまう。 とができる。 北朝頃の様子をリアルに伺い知るこ 衣服、食事、 細部までつぶさに確認できる。 絵巻の人物一人一人の仕草や表情 住まい、遊び、 行事、

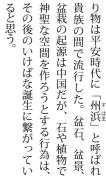






巻5の歌会では板の間の奥に3幅 の軸が掛けられ、それぞれの前に一 対の花瓶と香炉が敷板に置かれてい る。真ん中の軸は歌聖柿本人麻呂だ ろう。広口の花瓶に生けられている のは高野槙か。(図⑥⑦)

台の上に自然の景色を再現する飾れている(図①③④⑤)。 を1と巻3には盆石や箱庭が描か



をしたのが起源だそうだ。

れはその昔、瓶の中の浄水を清らかは香木としての樒の枝を挿すが、こ

今でも阿弥陀如来に供える華瓶に

に保つ意味で花や香木で器の口に蓋

図②の床の間には塗の台の上に青図②の床の間には塗の台の上に青はたしていけられたものか鉢植か。はたしていけられたものか鉢植か。に描き直されている。書き直されたに描き直されている。書き直されたのような床と床飾りがあったことが想像できる。(つづく)







イチハツ(鳶尾

シャガの仮葉、カキツバタの仮花と 『医心方』に鳶尾・和名 古也須久佐きりしないが、平安時代の医学書 多年草。日本にいつ頃来たのかはつ はシャガに似ていて、花はカキツバ して一八を使うと書かれている。葉 の記載がある。『立華時勢粧』では イチハツは中国原産のアヤメ科の

が生えていた」と描写している。 根の背にほとんど例外なくイチハツ 奈川の宿場風景」の中で「茅葺き屋 記 江戸と北京』(1863年)の「神 ト・フォーチュンも『幕末日本探訪 である。イギリスの植物学者ロバー えられた。大風から屋根を守る役目 かつて茅葺屋根の棟押さえとして植 乾燥や暑さ寒さに強いイチハツは

ることがある。洋の東西で同じよう も不思議で面白い。 に屋根に咲くアヤメの仲間。なんと ジャーマンアイリスが植えられてい 北欧の田舎に残る草葺屋根の家に フランスのノルマンディー地方や 日本のイチハツと同じように

上御霊神社の鳶尾

燕子花をスケッチしていたかもしれ があったそうで、その当時この地で うだ。神社の近くに尾形光琳の屋敷 の堀にカキツバタが群生していたそ を通って御所へ繋がっていて、神社 スではなく、本来のイチハツの方だ。 チハツを見に行った。今、切り花で イチハツと呼ばれているニオイイリ し、古くは鴨川から別れた川が境内 昨年の5月5日に上御霊神社へイ 上御霊神社は相国寺の北に位置

の氏子有志によって乾燥に強いイチ まったのを憂い、20年ほど前に近隣 干上がってカキツバタが消えてし 昭和初期に川がなくなり堀の水も

> 蘇らせてくださった。 ハツが植えられ、往時を偲ぶ景色を

> > 風除けの植物として茅葺き屋根の棟

によって維持されている。 よって植え替えなどの日頃のお世話 皆さんによる「いちはつの会」に 現在のイチハツの景観は、氏子の

ことは環境にも人の心にとっても良 いことである。このことは花をいけ

化を伝えること、花を大切に育てる れると信じられてきた。古の花の文 に植えられ、災厄から家を守ってく

イチハツは古来、厄除け、火除け、











横から見た奥行き

ニオイイリスの生花

<9頁の花> 仙溪

花材 ニオイイリス (菖蒲科) 花型 行型 三花五葉

花屋では(シロバナ)イチハツの名 の葉組ものにニオイイリスがある。 代から香水に使われた植物だ。 の仲間。古代ギリシャやローマの時 中海沿岸原産のジャーマンアイリス で売られるがイチハツではなく、地 春の早い内から楽しめるアヤメ科 イリス(アイリス)はギリシャ語

日も早く災いが去って明るい日が差 し、虹が出てくれますように。 の「虹」から付けられた名前。一



桜の立花

<10頁の花>

健一郎

啓翁桜(薔薇科) 松 (松科)

除真立花 桜一色

花器 天女文銅器 五葉松 (松科)

も先が見えない。 る。毎日自分の目が更新されている からだろうか。花を生けても生けて て現像された途端に手を加えたくな やっと立てられた桜一色。撮影し

女の器に。 桜は、一ヶ月ほど楽しまさせてくれ じい生命力である。お気に入りの天 けだが最後まで保ってくれた。凄ま た。 流枝は皮一枚で繋がっていただ これだけ綺麗に咲いてくれた啓翁

横から見た奥行き



<11頁の花> 健一郎





花器 狂言文銅薄端花材 連翹 (木犀科)

連翹の枝を50本以上の中から選んだち本。1番初めに選んだ枝はもちろん真である。50本の中から、似たような枝が2本あった。2本とも使うと珍しい枝では無くなってしまうので1本が際立つように枝を選んだ。留が少し高いが、全体で見るとバランスがとれている。連翹の黄色が薄端の銅器によく合う。枝の中はが薄端の銅器によく合う。枝の中はか薄端の銅器によく合う。枝の中は

横から見た奥行き



レモンちゃんと蕗の薹



11



出逢い花(37)

仙溪

花器 志野花入 (野中春清作)

作ったものに魂が宿る。そんなこと 吹き込まれる点で特別だと思う。 を感じる年齢になってきた。中でも が、実際に花をいけてみてますます ている。最初に見た時にそう感じた やきものは最終的に火によって命が この小さな志野花入も何かを持つ 人が魂を込めてものを作ると、

ミツマタだろうと言われている。三 も雰囲気のある花になってくれる。 和紙の原料となる。柿本人麻呂の歌 ている。クロユリを出逢わせると、 つに分かれた小枝に可愛い花が咲い に「三枝」の名で詠まれているのが ミツマタは中国原産の落葉低木で





いけばな作品写真:宇佐美宏

いけばな 桑原専慶流 2020年 5月号 No.683

編集発行 京都市中京区六角 烏丸西入 桑原専慶流家元





芹の花

<表紙の花>

櫻子

花材 レースフラワー 「ダウカスボルドー」(芹科) 胡蝶蘭3種(蘭科)

花器 レースガラス花瓶

別なものを取り合わせて。足元をク にしていけている。 な雰囲気になる。コチョウランも特 器に花を飾ると花全体が貴婦人の様 ロスさせて器の中の茎を見せない様 い珍しい色の花。大切にしている 「ダウカスボルドー」中々見かけな レースグラスの器に飾った。この花 軽くて柔らかいレースフラワー

白牡丹

<2頁の花>

ぱっと切らせてもらってハッカクレ ンとアザミを取り合わせた籠花。ボ 今日咲きました!というところを



じさせない様に気を遣いながら…。中々決まらなかった。ストレスを感タンの花が大輪過ぎて挿す場所が



<3頁の花> 仙溪

花材 生物 (数条科) おいまい はいまい はいまい (数条科) 白花撫子 (無子科) 白花撫子 (無子科)

いけることで心が野山を駆け巡る。ムシカリもそんな枝の一つだ。る。ムシカリもそんな枝の一つだ。山の清らかな空気や溌剌とした生命と感じる。シャクヤクやナデシコも出始めた。白い花が2種類になったが、かえって白色に思いが込められたように思う。





柔らかなみどり

<4頁の花> 仙溪

花材 裏白の木 (薔薇科)

花器 葉文陶花瓶 (伊藤典哲作)

茂った花と取り合わせたい。様々な緑が目を楽しませてくれる。様々な緑が目を楽しませてくれる。ので、シャクヤクやバラなど葉のるので、シャクヤクやバラなど葉のといけで優しい。若葉の出始めの頃にいけるので、シャクヤクやバラなど、

変に楽しめばいい。

横から見た奥行き



京都文化力プロジェクト

〜華道〜

桑原専慶流十五世家元

自然の美しさを器に凝縮する桑 原 仙 溪

それがいけばなの魅力

自然の美しさを切り取って器に入れることで、そこに新しい命が芽生れることで、そこに新しい命が芽生中の花一輪が、まるでマジックのように自然の真理を物語る。それがいけばなの魅力です。

そもそも「花を生ける」という文をものに進化を遂げました。その成なものに進化を遂げました。その成り立ちには、自然を依り代として崇り立ちには、自然を敬う心、自然に対しててきた自然を敬う心、自然に対してできた自然を敬う心、自然に対してできた自然を敬う心、自然に対して、神秘的な魅力を感じる独自の感性が神秘的な魅力を感じる独自の感性が神秘的な魅力を感じる独自の感性が神秘的な魅力を感じる独自の感性が神秘的な魅力を感じる独自の感性が神秘的な魅力を感じる独自の感性が神秘的な魅力を感じる独自の感性が神秘的な魅力を感じる独自の感性が自然を表情が表しています。

大きな影響を与えています。 る花伝書はその後の華道の歴史にもた「立花時勢粧」という8巻からな

自然の美しさを器に凝縮して表現自然の美しさを器に凝縮して表現するのが立花の醍醐味。桑原専慶流するのが立花の醍醐味。桑原専慶流をを大切にしながら、流祖の自由闊達な気風を受け継ぎ、新しいいけばをなの創造にも挑戦し続けてきました。十五世家元を継いだ私も、花をたの十五世家元を継いだ私も、花をたの付に思い、「どうしたらその花を生かせるか」と考えながら花と向き

人と人の心を結びつける心を込めて生けた花が

いけばなの最もすばらしいところは、「和」を作り出せるところにあると私は考えています。無機質な部なと私は考えています。無機質な部で、こころに気持ち良い風が吹き抜け、その場の空気がふわりと柔らかけ、その場の空はないでしょうか。たとがあるのではないでしょうか。ただきれいに見せることが重要なのでだきれいに見せることが重要なのでだきれいに見せることが重要なのでだきれいに見せることが重要なのでがあるのではないでしょうか。ためう気持ち、花を大切に生かす心を構が、その場に「和」をもたらす。

たとえ言葉の通じない相手とも、いけばなを通じて心を通わせられるから不思議です。私自身、海外でいけばなを披露する中で、幾度もそんな経験をしてきました。グローバルな経験をしてきました。グローバルな経験をしてきました。グローバルな経験をしてきました。がローバルな経験をしてきました。がローバルな経験をしてきました。

います あってほしい。私もいけばなを通じ ば次代に伝えることはできません。 今の時代は、そうした機会も心の余 てそれに貢献していきたいと考えて 来に新たな文化が生まれるところで 京都が多様な文化が混ざり合い、未 す。豊かな文化もその担い手である 裕も減っているように感じていま する機会がたくさんありましたが 頃にも異分野交流を通じて自己研鑽 れてきた歴史があります。私の若 そうした多様な文化が出合って化学 反応を起こし、 新たな文化が創造さ 結集し、豊かな文化が育まれました。 一般市民の方々の心が豊かでなけれ 千年以上もの間都だった京都に 全国から質の高いモノや技術が

員会」発行の情報誌より内容転載。「京都文化力プロジェクト実行委







4

続いて巻9からは二つの場面を紹

卓の後ろは板戸で、軸を外して花を花」という言葉も使われている。また、

る祖父の覚如。歌の中で「立て置く にいけたものだ。その美しさに見入 でも長く見ていたいと手折って部屋 い風で散ってしまいそうな桜を少し 自分の数え年16歳となる日、外の強 真宗本願寺派第4世宗主善如)が、 いる(①②)。覚如の孫(のちの浄土

真ん中に置いているのが興味深い。

朝頃)の様子がリアルに描かれてい がどのようになされていたかを窺い るので、その当時、花をいけること 『慕帰絵詞』(1351年)には鎌 (南北 仙溪 設えか、もしくは法会の演出か(③⑤)。 れた盆栽が3つ並んでいる。正月の 場面。縁先に青竹を立てた台に置か 如の孫、善如の弟)の初七日法会の 21日、13歳の若さで病没した光長 介しておこう。 また、同年2月の桜の季節、 一つは貞和6年正月

倉時代末期から室町時代初期

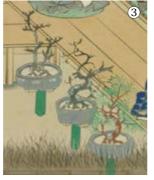
慕帰絵詞』

るのも一興である。 670年前のこの瞬間に思いを馳せ 手に持つ枝をこの後どうするのか。 たまた覚如を慰める心遣いの一枝か。 姿が(④⑥)。お墓に供える花か、は は、手折った桜を手に持つ若い僧の の裏に恋慕の情を歌に詠む場面で 善照尼の墓所に詣でる覚如。 。* 経療後 木質室

美しく一本の立派な桜がいけられて

巻8では、青磁の大きな花瓶に姿

知る手がかりになる。











8

春日権現験記絵』 仙溪

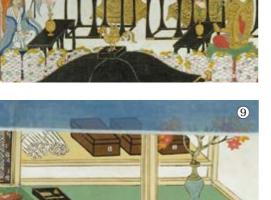
願するために春日明神から受けた加西園寺公衡が藤原氏一門の繁栄を祈ざられた。 習俗を垣間見ることが出来る。 護と霊験を綴った絵巻物で、当時の ンで模写が公開されている。左大臣・ (1309年)もデジタルコレクショ 鎌倉時代後期の『春日権現験記絵

が置かれている。そしてその菩薩像 中でも奈良興福寺で行われた維摩会 様々な出来事が描かれているのだが、 菩薩が向き合うその前にも同じ華瓶 年?)。講堂の三尊仏の前卓には華瓶 の描写 (78) が興味深い (1159 に立てた花が供えられ、また老僧と 8世紀からの春日明神に纏わる

> うとしているかのように見えるでは ないか。(巻11) は手に花を持ってまさに今花を挿そ

夢の中に鹿が現れて病が癒え、大切 時は元仁元年(1224年)11月、 の枝が挿された青磁の花瓶が見える。 は花瓶に挿した楓だ。 として描かれているが、 だ。鹿は春日明神の使いであり象徴 な仏事を遂げることができた僧の話 巻15には、部屋の隅に紅葉した楓 目を引くの

ぞれの時代を正確に描いていないか たかを考える貴重な資料である。 にどのように花瓶に花が挿されてい もしれないが、少なくとも鎌倉後期 遡って描かれた絵巻の描写はそれ





をあかる時代中電門法果房といっているで

一人いていても、馬例並で天井の丁

有なわえる一世っく者にほくちんだる 房中間でをきますとうかとるなな

上、紀伊寺老以をの有れて言語天下記 中乃ろう必實尊寺物乃時候其首代

し貴城がほとは死たなられるの

寺主寺家門中をやこく

『ホンモノ』

健 郎

限りゆっくりと眺める事は難しいだ 作業にも見えた。絵の写真を次から れば、次の絵を見に行く。ベルトコ ほとんどの人達は写真を撮りさえす とがある。流れが異様に速い事だ。 が一つだけ作品よりも気になったこ ろう。次から次に人が流れこむ。だ あった。開館直後、閉館間際でない はり、レオナルド・ダ・ヴィンチの でも1番の人気を誇っていたのはや 始まったパリの美術館巡り。その中 価値があるのだろうか。 スマホの中のモナリザはどれほどの 次へと撮っていく姿は冷たかった。 ンベアーの作業員のように事務的な 『ラ・ジョコンダ』(モナ・リザ)で たくさんのホンモノに出逢うべく

誰もが知っている。やはり本物であ だがそんなことは誰もしないことを 真だけ撮る姿を見ていると、そこに る事が大切なのだろうか。しかし写 で名画の鑑賞ができるわけである。 本物がある意味を考えさせられる。 でもすれば原寸大、原寸以上の迫力 よほど画質がいいだろう。拡大印刷 ネット上で検索した画像の方が、

リザを楽しみにしていたに違いな 列に並んだりはしない。本物のモナ れは事実である。でなければ長蛇の にパリのルーヴルに人が集まる。こ 本当に本物である。本物を見るため 目の前に本物のモナリザがある。

> ろう。疑問を抱かさせられた。 ていないか。なぜここまできたのだ 行く。あまりにもあっさりとしすぎ 写真を撮ればすぐに次の作品を見に ると「本物だ。」と言い、写真を撮る。 だが、実際に本物を目の前にす

度と味わう事ができないのだから。 をカバンにしまい自分の目と耳で牛 考えていたならば充分だが、スマホ 乏しく思う。雰囲気を楽しむ程度に が、その場で得られる体験としては 分で撮ったという事実は確かに残る ライブでの演奏の撮影で手一杯。自 も見る事ができた。アーティストの で確かめる方がいい。同じ体験は2 同じような事はコンサート会場で

をつけたわけである。 いる、なんともいえない何かに名前 と名付けた。もの一つ一つが持って ベンヤミンはそれをアウラ(オーラ) りの経験が持つ価値のことをいう。 である。やり直しのきかない1回限 であり、他に変わりが無いものの事 は述べている。ホンモノは唯一絶対 ノについてヴァルター・ベンヤミン ホンモノってなんだろう。ホンモ

期待」をベースにした鑑賞方法と「鑑 品の鑑賞に3種類ある。「鑑賞者の プローチをしていく。私の中では作 近づけるようにいくつかの方法でア 方法と「作品が持つオーラ」をベー 賞者側の知識」をベースにした鑑賞 本物の作品を見るためには本質に

> 自分の頭で創り出した物であるが違 スにした鑑賞方法である。いずれも

るを得ないのかもしれないが。 すぎる作品を目にすればそうならざ ものに対して好奇心を向ければもう は究極の形であると言えるが、その 事になる。存在への感謝、有り難み そこにある事だけで満足してしまう えた時の衝撃が大きく、その作品が そこにあるんだという期待が作品の 頭に何度も刷り込まれ、凄いものが などがあげられる。凄いという事が たことがあるような気がしている人 科書や、プリントTシャツで作品を 回数や、口コミの影響が大きい。教 頻度、つまりその作品のことを見た 見たと覚えている人、その作品を見 鑑賞方法は、その作品との単純接触 一つ踏み込んだ鑑賞法になる。有名 **価値を上げる。有名な作品ほど出会** 「鑑賞者の期待」をベースにした

に鑑賞しても楽しい。

のである。 身大であり、

ている事を初めてのように新鮮に感 ある。ブジャデとは、何度も体験し のだ。ブジャデの能力が必要なので その作品にのめり込む力が必要とな いるかどうかでもある。 しい発見はないかアンテナを張って 気なく歩いているようでも、常に新 じる事である。 いつもと同じ道を何 かのように反応しなければならない る。有名な作品をまるで初めて見た 作品のオーラをベースにした鑑賞は **識を磨けばよい。それに引き換え、** いい。知識をベースにした鑑賞は知 品を見る事に期待を膨らまさせれば

歴史的文脈の中で捉えるのも、その の作品を観に行く。この鑑賞方法は である。作品よりも横に書いてある 識を基盤にして作品を鑑賞する方法 著書を読んだ人それぞれの経験・知 る。作者の素性を知っている人や、 である。知識は人により個人差があ 立つ。作品ではなく自分の頭が主体 識と多少の感覚的経験によって成り た鑑賞方法はそれまでの鑑賞者の知 説明を熟読し作品はサラッと見て次 「鑑賞者側の知識」をベースにし

作者に焦点を当てたものでも複合的

作品から感じるオーラは、自分の等 る。自身の感覚的経験に基づいて、 識)を捨ててただ感じることに徹す した鑑賞方法は、一切の先入観(知 作品が持つオーラ」をベースに 作品が語りかけてくる

期待をベースにした鑑賞はその作

決めつけをしたりするようになって と自分が何でもいろいろ知ってい しまう。有名な作品を見た時に、分 とを勝手に思い込みで判断したり、 知っているつもりになって、人のこ 学びをやめてしまう。自分は何でも なって、謙虚に学ぶ姿勢がなくなり、 る気になってしまう。それが驕りに 知識や経験をたくさん積んでくる

> かった気になってしまう恐れもある り、観念に囚われずに物事をみると ると、そこにはたくさんの発見があ の疎通が可能なので質問を投げかけ 体験する事になる。言葉による意志 たはずのことを、毎回初めて見たり も見たはずのものを、すでに体験し ることが多い。彼らにとっては何度 を共にしていることで気づかせられ 介護の仕事で認知症の人たちと時間 づく事はできる。幸い私の場合、日々 ても実行に移す事は難しい。でも近 こういうことは頭で理解できたとし 化である。知る前に戻るのである。 をする事が難しいが言うなれば幼児 のだ。知ってしまうと知らないフリ ントのような物で溢れている。

態で見るのとでは、衝撃や感動の度知ったうえで見るのと知らない状 少なくなった日常を非日常に変えら ない声を聞ける力を磨くと、刺激の けるだろうか。物質が持つ声になら らないで見た時にその凄さに気がつ 合いはどちらが大きいのだろう。知

味わえる自分でいたいとは思ってい ンモノと出逢った時に、ホンモノを も分からない始末である。ただ、ホ る。何を何のために考えていたのか 分からないのが本当のところであ とはいってもホンモノが何かすら

五穀豊穣

<9頁の花> 健一郎

陶花器 稲穂 (稲科) フェルトのネズミ (ティム・コプシー作)

古いアルバムを見つけたり、先代、 あった稲藁の、稲穂の部分を使って出てきた、立花の込藁用に残して のように大掃除を一家でしている。 いけた一作。年末でもないのに毎日 家元が納屋の掃除をしていた時に

> けの時間に感謝をし、したい事をし えている。今後無いであろうこれだ られ今までにないほど自分と向き合 る。今までにないほどの時間を与え 長線上に自分がいる事を強く感じ での自分ではなく歴史という線の延 先々代の写真なんかを見ていると点

もらった。 知り合いにお願いして、こしらえて フェルトのネズミは手先の器用な

> 小原流 ~家元対談~ 月刊誌「挿花」4月号

小原宏貴さん

国内外の活動に力を注がれている。 化である「いけばな」の普及と、芸術家として れ、6歳にして五世家元を継承。日本の伝統文 小原流家元の小原宏貴氏は昭和6年に生ま

誌での対談相手に指名していただいた。 を毎号楽しみにして下さっていて、小原流月刊 桑原専慶流「テキスト」に載る健一郎の文章 桑原健一郎





太藺と髭撫子の生花 <11頁の花> 健一郎

花材 太藺(蚊帳吊草科)花型 株分け

2種か3種か

<10頁の花> 仙溪

薔薇(薔薇科) アネモネ(金鳳花科)

花器 結晶釉鉢 (前田保則作) 花展向きの太いナナカマドの枝。



か少しでも励みになりことができませんだのかりしても励みになりませんだ。

けにゃいで!」
「みなさん、コロナウィルスにま

花器 小判型陶水盤 髭撫子 (撫子科)

水物の中で太藺は手に入れやすが多いが、太藺のお生花は几帳面さが多いが、太藺のお生花は几帳面さを求められるように感じる。得意でを求められるように感じる。得意でをがあい。 大藺の は 生 に 入れやす

横から見た奥行き



集える尊さ

が少しでも励みになりますように。うことができませんが、「テキスト」うことができませんが、「テキスト」感染症拡大を防ぐために、今しば



出逢い花 38

紅羊歯(雄羊歯科) (雪の下科)

花器 雲紋竹花籃(箕浦竹甫作)

森の湿り気を感じる。 はないが、こちらもしっとりとした 咲く。その仲間のアカバナヤグルマ ところに生えるヤグルマソウ。矢車 ることもあるようだ。葉は矢車型で マソウの英名ロジャーシアで呼ばれ ソウは中国原産と思われる。ヤグル に似た葉と白い小さな花が集まって 深山の谷沿いや林床の湿気のある

れている。竹の表面にあらわれる雲 す。居心地はいかがですか? しい籠で迎えて庭のシダでもてな この籠は丹波篠山の雲紋竹で編ま この珍しい客人(花だけど)を美



横から見た奥行き

いけばな 桑原専慶流 2020年 6月号 No.684

編集発行 京都市中京区六角 烏丸西入 桑原専慶流家元





二瓶飾り

<表紙の花>

仙溪

花型 生花 二瓶飾り 花型 生花 二瓶飾り

は、枝ものと草花のとり合わせを楽株分けや二重切り、二瓶飾りなどだったので、カラーで再掲載。 しめて、季節を感じる生花になる。 (2012年6月 588号より) 過去の「テキスト」では白黒写真 花器 陶鉢一対(フランス製)

深山の宝石

<2頁の花> 櫻子

花材 山芍薬(牡丹科) 掘子(撫子(撫子科) (無子科) 花器 陶鉢

ヤマシャクヤクは山の奥深くで白

紅色のナデシコを添えた。



好きな器

<3頁の花>

健一郎

花材 黒蝋梅 (蝋梅科) 透かし百合(百合科)

耳付陶花瓶

まとった不思議なオーラが堪らなく ものを使っている。どうも私が惹か 代の家元には特色があり、自ずと使 るのではないだろうか。それぞれの 花器は、全部合わせると500程あ 気持ちがいい。 とまたいい表情になる。クロロウバ 気に入っている。花と組み合わせる があるみたいだ。原始的な雰囲気を れる花器は十三世のものを選ぶ傾向 欲しい花器もあるが、今は家にある う花器の種類も違ってくる。自分の イの暴れ枝は納得いくように入ると 十三世家元~十五世家元が集めた



健一郎のインスタグラム ken161022

説しています。ぜひ覗い動画で花の生け方を解 てみてください。









綺麗になった石畳を歩くレモンちゃんとバラ。



真っ赤なバラ

<4頁の花> 仙溪

花材 コアラファン (軟&の)ぐき 薔薇 (薔薇科) 薔薇 (薔薇科) で自合科) (百合科)

限ってなんだろう』

健 郎

祖父は幼いころに夢で見た無限の針 た。その疑問をぶつけると祖父は嬉 山に囲まれた時の恐怖が忘れられな しそうに話を広げてくれる。 いう疑問を持ちながら話を聞いてい の針の山が無限だと分かったのかと いとよく話してくれた。私はなぜそ いて考えている時は、ワクワクした。 てなんだろう。その中でも無限につ んだろう。宇宙ってなんだろう。死っ 祖父とはよく考えた。無限ってな

えていた。なぜ数字はここで終わる 必要がないのだろうか。数字では表 は到底追いつけそうにない。人には という数字をいくら並べても無限に のだろう、続きが知りたくなる。9 は全て言えないが当時はよく位を数 、十、百、千、万・・・無量大数。今 無限とは?まず数を数えてみる。

こを広がっているのかも、どこに向 始まりであるビッグバンを知った。 かって広がっているのかもチンプン 無限に広がり続けているらしい。ど ビッグバンの説によれば今も宇宙は がたくさんある事を知り、 調べていた。そこで太陽は2千秄ト ンの体重だという事を知り、 小学生の頃に太陽の事が気になり 宇宙の 銀河系

> 気はなくなってしまった。 取り外され、離れた廊下は一つにつ さが増幅された。今ではその簀子は 端に制限されるからだろうか。日本 味であり、この世のものとは思えな である。何もかもを吸い込んでしま 奥に見える床下の空洞が怖かったの 子の上を通るのが怖かった。簀子の の上を歩くことになる。その時に簀 でのトイレが怖かった。階段を降 感じていた。私が祖父の家に住む ながってスロープになり、 家屋独特の不気味さとあいまって怖 かった。日中に比べ、視覚情報が極 無限を感じていたようである。不気 かもを吸い込んでしまう黒色に私は いそうな黒色は忘れられない。何も ようになって間もない頃、 廊下は途中で切れて一度敷 ・ のでであってトイレに行くのだ は、夢ではなく、現実で無限を 昔の雰囲 夜の1人

る始末で、頭がぼーっとしてなんだ には何を考えていたか分からなくな では、なんで考えていたのか、つい る。分からないという事が分かるま いという事が分かった。大発見であ 決する事はできなかった。分からな か退屈になる。 まさせているこの大問題を2人で解 無限って何だろう。人類の頭を悩

るときにはワクワクし、考えると退 恐怖があるようだ。無限は考え始め 無限のなかにはワクワクと退屈

> らしい 屈、自分ごとになると恐怖を感じる

う。本当に自分は存在しているのか 脳が自分なのだろうか。なぜ自分は 私はここにいる。私がここにいると らは、何が分かっているのかを確認 としてきた。 と不安になる。ほら、また頭がぼーっ 脳であると自分には分かるのだろ いう証拠は?自分だと認知している いので、何があるのか考えた。まず するようになった。無限がわからな 分からないという事が分かってか

目を覚したら知らない人だらけの世 ずだったのにその娘は孫を連れて面 界を。娘が中学校から帰ってくるは 分がいるか。想像してみて欲しい。 しれない。覚えがない場所になぜ自 症の人はわからないから怖いのかも 知らないことは不安である。認知

け入れられずに人に原因を求め、怒 大きすぎるのだ。相手の心の不安を 自分で考えている自分と現実の差が かもしれない。ものを考えようにも る。私が想像するに無限の不安なの しようとする人がいる。どちらにも る人。自分の中に原因を探し、解決 不審にも思うだろう。その状況を受 飯を配ってくれるお兄さんがいれば 昼ご飯を食べたはずなのに、お昼ご ぐ100歳になるらしい。さっきお 根本には知らないことへの不安があ

人と向き合うのではなく、

合う方法の一つである。 分からないものは怖い。

会に来ている。娘がいうにはもうす

想像する事ができれば、怒っている 態度も違ってくる。 と向き合うことになるので会話への 不安な人

とも多い。分からないものが突然出 のが沢山ある。人間が理解できてい 見つけることは、自分の恐れと向き れたわけだ。これらの中に安らぎを マズ、風神、妖怪、宗教などが生ま 議な物事を説明するのに、地震のナ 物事を筋道立てて説明できない不思 ない。分からないことは恐怖である。 てくると、大慌てである。何とかし るものもあるが、まだまだ未知のこ そ科学がメカニズムを説明してくれ ないものは怖いものである。今でこ て原因をつきとめよとしたが分から 台風、洪水など自然現象にも怖いも 地震、雷、

きない。言葉で表現できてしまえる が身を置き、体験しなければ納得で のである。だが私は、その場に自分 えを持っていることは、その人の中 それは死への恐れの助けになる。答 ものだとは、到底思えないからだ。 向き合える程度にぼかしを入れたも 自分の恐れを無視するのではなく、 では知っているということになる。 答えるための何かを持っていると、 後の世界など、恐れに関する質問に たとえば死後に起こることや、死

が揺るがされたときの恐怖。もう よって創り出される恐怖である。恐 一つの恐怖は自らが頭の中で思考に 怖いには2種類ある。生命の存在

怖によって心拍数が増加し、血の気

これを私は贅沢であると考える。 物にしかできない事である。 じられるという事は、考えられる牛 うか。考えることにより、恐怖を感 ければ感じられないのではないだろ とは少し遠いためか、相当の物でな 考により感じる恐怖は、生命の危機 応を体は示す。それに引き換え、思 が引き、震えや発汗などといった反 考える事で怖くなれるのである。

ブジャデ

違い?と思われた方も多かったので きるだけブジャデを意識して、 に新鮮に感じることを指します。で 度も体験しているのに初めてのよう その反対のことを表す造語です。何 感じることですが、「ブジャデ」は でにどこかで体験したことのように は。説明不足でしたので補足します。 いうのがあって、「デジャブ」の間 度も体験したことがないのに、す 「デジャブ」は既視感のことで、 先月の私の文中に「ブジャデ」と

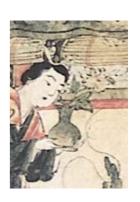
な事に気づきたいと思います。



出典: 『続日本の絵巻8華厳宗祖師絵伝』中央公論社

老若の僧たちに金剛三昧経について講義する元暁 (617~686)。後方の壇には青いガラスの瓶に花が挿してあり隣に香炉が置かれている。仏の崇高な教えに浸り、真理を深く悟るための道案内として、香を焚き花瓶に花を挿しているように感じられる。

代を遡ってみよう。
『慕帰絵詞』と『春日権現験書を見てきたが、もう少し時子を見てきたが、もう少し時子を見てきたが、もう少し時子を見てきたが、もう少し時子を見いる。





出典:『続日本の絵巻8華厳宗祖師絵伝』中央公論社

新羅の学僧、義湘(625~702)は船で唐へ渡り、長安をめざす。ここには義湘が途中で立ち寄った長者の屋敷の様子が描かれている。深く仏教に帰依しているのだろう、机には経典が置かれている。侍女が花を挿した花瓶を持っているが、花瓶の口の形が花の形をしているところは、図③の花瓶と同じである。この絵の右には、長者の娘・善妙が、義湘に恋慕の思いを告げるところが描かれている。

絵巻では、恋心を深い信仰心に昇華させた善妙が、自ら海に身を投げて龍となり、新羅へ戻る義湘の船を守るというドラマチックな場面がつづく。

『華厳宗祖師絵伝

ある義湘と元暁の物語絵巻である。とされる。朝鮮半島、新羅国の華 る挿花の様子が窺える。 \(1 \) 2 \(3 \) 2 \() ここにも異国のことではあるが、 寺院に お

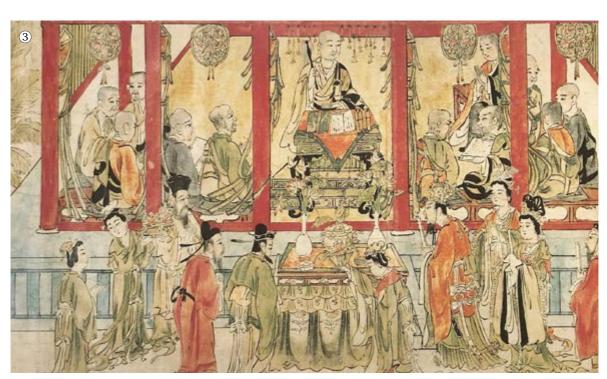
その横に香炉も見える。 図①には青いガラス瓶に花が挿されて 場所は新羅。 お ŋ

瓶を指し出す。 合の屋敷。 ②の場面は中国 女主人の前に侍女が花を挿した花 机には盆石と香炉も置かれてい (唐) のとある港町 にある

花瓶と香炉が置かれ、 ③は立派なお堂での講説に人々が集まる場 場所は新羅の浮石山寺。 堂の正面に蓮の花と葉が挿された一対の 女人が供花を捧げ 持って

彼の地の描写と思って見ても良いだろう。かたと推察する。少なくとも明恵上人の これだけの描写の元となる知識は持ち合わせて 意上人自身は唐への留学を果たせなかった 上人が実際に見てきたわけでは無いが、 少なくとも明恵上人の時代の

古代の中国や朝鮮において、 挿花がどの様で



出典: 『続日本の絵巻8華厳宗祖師絵伝』中央公論社

唐で学び、新羅に戻った義湘が、浮石山寺にとどまって華厳の教えを広めるため講説して いる場面。ハスの花と葉が幾本も挿された花瓶は白磁だろうか。他にも供えるための切り 花を手に持つ女性が二人。一方は籠のようで、一方はガラスの鉢に見える。華厳経は4世 紀頃インドでまとめられ、その後中国の杜順(557 ~ 641)が華厳宗を開いた。日本では 義湘たちの後に唐で学んだ新羅の僧、審祥(生没不明)が 736 年に招かれて華厳経の講義 をし、感動した聖武天皇は東大寺に大仏を造ることになる。今も東大寺は華厳宗を伝えて いる。そもそも華厳という名前には「花で荘厳された教え」という意味が込められている。





出典: https://benrido.co.jp/wp-content/uploads/2014/07/nenbutu.gif

バショウの葉を光背に、釈迦如来のポーズでハスの葉にカ エルが座る。前机の花瓶に3本のハスの花が立てられてい る。ガラス瓶だろうか。茎が透けているようにも見える。 一つ気になるのは、前後の場面を見ても香炉が描かれてい ないこと。蓮の花の香りが代わりになるという心だろう か。又はこのような形式もあったのか。ひょっとして型に こだわり心を忘れることへの諷刺か。識者の解説をお願い したい。



出典:『日本の絵巻6鳥獣人物戯画』中央公論社

カエルがハスの蕾をうやうやしく捧げ持つ。猿僧正への供 物だろうか。ハスの茎には念珠が掛けられている。 仏教においてハスの花は特別な存在なのだ。

滑稽に描かれた絵巻だが、物戯画』も流転の末に伝わ が見える も流転の末に伝わっている。は明恵上人が建てた高山寺には (図 ④)。 ここにも挿花の描写 蛙や兎が見が見ばり

ツを知っておきたい。

町時代の「立て花」誕生の瞬間に思いを馳せる 景を想像する上での手がかりになるだろう。

祈りの場における花について、そのルー

あったかを知ることは、

い

けばなが生まれる背

室

ら鎌倉時代初期に描かれたとされている。 『鳥獣人物戯画』 1140) ほか数名によって平安時代末期 安末期には、 仏の前に蓮の花を挿した花 は鳥羽僧 正 覚から がくゆう 1053 がか

> 花がどんなものだったのか、 しずつ変化もしただろうが、 帰っている。それらは少しずつ根付き、又すこ 教えを学びに大陸を訪れ、 世紀に仏教が伝えられて後、 もう少し探ってみ 元々の大陸での挿 様々な文化を持ち 多くの僧が仏

想像できる。 を供えることが仏事の決まり事であったことが



デンファレタニワタリ

ファレ

<9頁の花> 仙溪

花材 谷渡り (茶筅羊歯科) 花材 谷渡り (茶筅羊歯科) デンファレ (蘭科)

タニワタリは大中小と、大きさをとりまぜて使うことで生花になる。 ただし、葉が大きくて足元も太くなるので、一種でいけても、よほど特徴のある器であれば面白い生花となるだろうが、普通の器にいけても一種だけでは万年青や葉蘭のようなキリッとした風格を表現しにくい。家でいけて飾るなら、南国の鮮やかなランと株分けにするといいだろう。ランの色とタニワタリの緑が互いに引き立て合ってくれる。少し大きめの水盤がいい。





近況

が、5月は花にプリントを添えてお届け し、自宅で自主稽古をすることに挑戦し メールや手紙で送ってもらい批評をお返 ていただいてます。いけた花の写真を 新鮮な感じで楽しんで下さってます。 しするのですが、皆さん初めての試みを 4月から稽古をお休みにしていました

元にもどしました。苦労したあとの清々 磨き、小石はバケツでピカピカに洗って い。すべての小石を集めて溝をタワシで 表面は綺麗でも、その下は泥がいっぱ しさと充実感を味わっています。 石を洗いました。黒い小石(那智黒)は コロナ自粛中に家族総出で家の路地の

雲のように

<10頁の花> 仙溪

花材 荷香(薔薇科) 花材 荷香 (芹科)

スモーク・グラス(稲科)

花器 ガラス花瓶

は「甘い生活」だが、「幸せな日々」とも。 バラの名前はドルテェヴィータ。直訳 (スウェーデン製)





野山の風情

<11頁の花> 仙溪

鉄線(金鳳花科)

陶花瓶(宇野三吾作)釣鐘鉄線(金鳳花科)

タケシマユリは竹島で咲いていた百合なので名付けられた。領土問題 正なっている竹島ではなく、韓国の 東140キロにある火山島で、韓国 名をウルルンド(鬱 陵島)という。 名をウルルンド(野生植物の宝庫 学の建立で、 等国の領土で、野生植物の宝庫 だそうだ。

タケシマユリには独特の個性がある。ラグビーボールのような蕾。鮮る。ラグビーボールのような蕾。鮮な、一本でも絵になってくれる花だが、一本でそのままいけるには丈が長い。

とり合わせる相手に悩む花だからない。





出逢い花 39

仙溪

紫陽花(紫陽花科)

笹百合

(百合科)

花器 ガラス花瓶 (イスラエル製)

平安時代の律令の注釈書『令義解』
平安時代の律令の注釈書『令義解』
神社の摂社、率川神社で行われる。神社の摂社、率川神社で行われる。神社の担社、率川神社で行われる。神社の担対、率があれば、 おや、罇や缶という古代の酒樽に花にも記されている歴史ある神事だ。 事が中止になっている。京都では葵 を感じるではないか。 祭の行列も祇園祭の巡行もなくなっ を飾る?なにやらいけばなのルーツ た。6月の三枝祭りはあるだろうか。 コロナウィルスの影響で各地の行

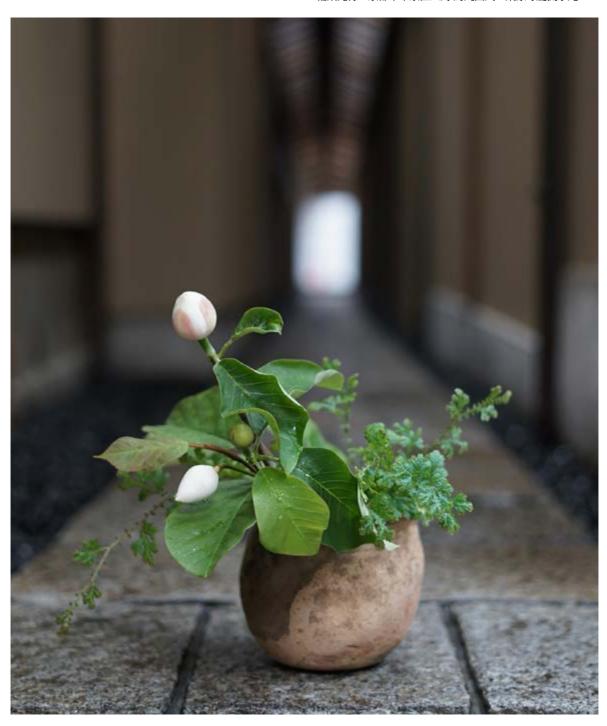
歴史がある。先人達が花へ託した思 いを共有したい。 私たちが花をいける背景には長い

ぴったりだ。 るので、一輪挿しや出逢い花の器に も水を入れるとしっかり立ってくれ てしまいそうなほど軽くて薄い。で 瓶。手からするっとすべって落とし 写真の青い大理石模様のガラス花



いけばな 桑原専慶流 7月号 No.685

編集発行 京都市中京区六角 烏丸西入 桑原専慶流家元





路地にいける

<表紙の花> 健一郎

弥生土器

るよう備えておく。 はあるが、ある程度の事は受け流せ かった面倒な事、そして基盤を固め が引き締まる。今までできていな が起こるか分からないのが世の常で るために時間を使う事ができた。何 いる。石畳に水を打つとピンと空気 まとまって掃除できた事に感謝して 除をした。20年ほど前に大工の人達 に依頼して以来との事。 家族全員が 家総出で露地の砂利を磨く大掃

まった。咲く前の大山蓮華と水を多 合う機会がなく一年ほど経ってし 寺で購入したものだ。原始的な植物 分に含んだ光るシダに弥生の土器が と合わせたかったのだが、花に巡り 写真の土器は去年の7月25日に東

初夏の香り

<2頁の花>

櫻子

花器 フランス製青練込陶鉢 笹百合 (百合科)

だったので、カラーで再掲載。 の優しい色は、白黒写真では伝わら カキツバタの雅な色と、ササユリ 過去の「テキスト」では白黒写真

がやっと発芽するだけで、開花には 生育が非常に遅く、一年目は一枚葉 聞いたところによると、ササユリは ら育てたものをいただいた。その時 7~8年かかるそうだ。 このササユリは奈良の知人が種か

的に見せた。 ミヤマナンテンをとり合わせた。 にドラマがあると思うと、愛おしく、 大切にしなければと思う。 高さを抑えて、枝の広がりを印象 四季咲きのカキツバタと軽やかな 私たちがいける花には、それぞれ (2006年7月 517号より)



蔓をいける

<3頁の花>

京鹿の子(薔薇科)



花器 陶花器(木村展之作) 鳴字百合(百合科) 鳴子百合(百合科)

クマヤナギは日本の山地に生える 落葉つる性木本で、クロガネカヅラ 落葉つる性木本で、クロガネカヅラ の別名がある。つるの先の房は、去 年咲いた花のあとにできた実であ る。地味な花材なので明るい野の花 を合わせた。 クマヤナギはぐにゃぐにゃでいけ たくい。細めの背の高い花器がいけ

だ器に写真のような仕掛けを入れにくい。細めの背の高い花器がいけにくい。細めの背の高い花器がいけにいけてみた。

見せることができた。
見せることができた。







こころは異国へ

<4頁の花> 櫻子

年に大きく豊かにスモークしている 等年も又新鮮なスモークツリーを いないけれど、お弟子さんが箱詰め にして送って下さった。日当たりが にして送って下さった。日当たりが にして送って下さった。日当たりが にして送って下さった。日当たりが にして送って下さった。日当たりが

毎年お稽古させていただくのが楽しみで、薔薇や向日葵、柏葉紫陽花とみで、薔薇や向日葵、柏葉紫陽花など季節の花を取り合わせている。今回はギガンチウムと、カトレアに似たレリアという細くて繊細な蘭と似たレリアという細くて繊細な菌と

いる。

、
は
は
な
い
け
な
い
け
れ
ど
、
こ
ん
な
風
に
楽
し
ん
で
、
異
国
に
い
る
様
。
今
は
何
処
に
も
行
で
、
異
国
に
い
る
様
。
今
は
何
処
に
も
行
で
、
異
国
に
い
る
様
。
今
は
何
処
に
も
行
で
、
異
国
に
い
る
様
。
今
は
何
処
に
も
行
で
、
異
国
に
い
る
は
の
東
物



『ニセモノ』

郎

う考え方が根底に流れているわけだ うと本物の作品の本質が見えるので ずに頭を空っぽにして物事と向き合 が、今回は日本の偽物とも思われて には、作品に本物と偽物があるとい はないかという話だった。この考え 把に要約すると、あまり難しく考え いて考えてみようと思う。 いるかもしれない、面白い文化につ モノについて少し考えてみた。大雑 確か、先々月のテキストで、 ホン

うのか。」と言われることもあるが、 どうも世界から見ると珍しい文化が る写し」が存在していると考えてい 「盗作」「学ぶ写し」「残す写し」「祈 ている。その意識を大きく分けると と向き合ったかの違いであると考え 私はどういった意識で先人との作品 ある。「写し」というものである。「写 「単なるコピーだ。」「盗作とどう違 しは模倣であって創造ではない。 偽物と誤解を恐れずに言ったが、

販売や、名のある人のサインをして 自分の印を押し、自分の物としての ある。他人の作品を精巧に写しとり、 を持つ恐れがあるのが、「盗作」で としては大成功だと言える事ができ の販売等はは許し難いが、ビジネス この意識の中で一つだけ悪い印象

> ころで文化の発展に貢献している。 ある。写すという行為はあらゆると する様な磁器が生まれた事実を見る ディアが生まれ、ヨーロッパを風靡 が、その技術が発展し、新しいアイ て輸出していた事実は存在する。だ が、中国からの焼き物を日本で写し るだろう。盗作とまでは言わない 悪いことばかりでもないようで

ていくことでオリジナリティを作り り、そこに自身の経験を擦りあわせ 巨匠達も真似ることでその基礎を作 学ぶ写しは世界共通で、あらゆる 連続で出来ることを増やしている。 源が真似ぶだと言われている様に、 のが「学ぶ写し」である。学ぶの語 きると考えられている。人は真似の 写す事は効率的に学びを得る事がで 盗作に引き換え、誰もが経験する

考えられない以上、その作品はオリ 今まで培ってきた知識でしか物事を 知識が必要なだけだ。私たちの脳が 写した場合は何を写したかは分かり ている。ただ、複雑で専門的な物を らないだけで、写しなのではと考え 思える作品は何を写したのかが分か だろうか。写しの上にないオリジナ の意味でオリジナルは存在し得るの のがオリジナルの問題である。本当 づらく、写しを読み解くには多くの ルを私は知らない。オリジナルだと 写しを考えるにあたり、衝突する

> ジナルであるというこはあり得 培った知識で想像するからである。 生まれる。なぜならば、人は今まで い。過去とのつながりの中で物事は

も言えないだろうか。 り、オリジナルなのである。自然を つまり、絵には独創性があるだけと 立っており、写した絵は同一でない。 ても、写した絵は様式、技法や表現 して既にある絵を写した場合におい は違いないが、自然そのものと描か 表現した絵は、自然を写したものに に様々な要素が組み合わさって成り れたものは当然、同一ではない。そ つまり、ひとつの絵は写しであ

求められ、本物と同じだけの質を要 である。そして、学ぶための写しと て取るといったケースも存在する。 しの作品を使用し、そこに本歌を見 けないオリジナルの器のかわりに写 求される。その他にも、壊れてはい にあたる。ここでは精巧に写す事が 重要文化財の復元、保存などがこれ 似通った性質を持っている。国宝 のため、先人の意思、心を残す写し 「残す写し」は形の復元や、保存

伝統である。「モノ」はいつか消え 以上に「形」を重視していた。写す た。本物も大切にしていたが、それ かという事が評価の基準になってい 家(乾山)の写しを巧みにできる 江戸時代の陶工達は、偉大な陶芸

> 度つくり直す事で、心は永遠に受け 物の精神が宿る依代であるからだ。 仏壇を通して、その向こう側を見て 仏壇に手を合わせる時に似ている。 継がれていくと考えたわけである。 つまり、本物の形を真似してもう一 て無くなってしまうが、「形」は本

取るのだ。 かったのではないだろうか。

に見たままを描き起こす能力ではな そこで重要視されていたのは写実的 待をされていなかったからである。 正解を描く事が求められ、変化を期 化しなかった。ただ求められている エジプトの絵画は二千五百年間進 形式を通して同じ心を伝えた

されていく事で写しを作るのに制約 うになる。特許権などの法律が整備 制作する行為であるとみなされるよ リティーが重視される思想が海外か たものが文化であると言われるとそ え抜く事ができるのだろうか。残っ らないだろうか。今後、こういった、 継承に大きな亀裂が入った事にはな が生まれ、偽物作りがしづらい環境 ら入ってくると、写しはただ複製を に整えられていく。それは精神性の **無理思想の変遷のふるいに文化は耐** 精神性を受け継ぐ国に、オリジナ

紹介したい。祈る写しとは、写経や 最後に「祈る写し」というものを

> する行為である。この場合も写す事 為を通じてか、行為が先なのかは分 写仏がこれにあたる。祈りという行 祈るように描いていたと想像してし めという気持ちもあっただろうが、 描ききった彼を想像するに、人のた 亡くし、金堂壁画の模写にのめり込 でも知られている。一人娘を五歳で 鈴木空如によるものだが、鈴木空加 に掲載の絵巻『慕帰絵詞』の模写は いるのである。テキスト4、5月号 が目的ではなく、祈るために写して からないが、移す事を通じて祈りを んだらしい。1人で蝋燭の炎だけで は法隆寺の金堂壁画を模写したこと

その行為を通して流祖のことをあれ どの物になれば良いなと思える。 写しとなる。そして、盗作されるほ 起こさせ、それはやがて残すための に写す行為は、祈りにも似た感情を やこれやと考えてしまう。学ぶため 絵図を模倣して立花を立てると、

ある。 統であり、 表現となる。そして写しの連続が伝 解釈を組み入れることによって今の 去の表現を理解し、そこに現代的な ての創造性は、写すことを通して過 気を持った物を生み出す。芸能とし 継承された形を理解し、現代の空 文化、生命の継承なので

仏教遺跡に見る花と瓶

仙溪

中で、花と器について探ってみよう。 インド→中国→日本という仏教伝来の流れの

世紀末) 絵画である法隆寺金堂壁画 極彩色壁 インド は 一画が残る。 のアジャンタ石窟寺院には6 アジャンタの壁画を模 \exists 本に現存する (奈良県 したものと 斑が最 鳩が古町の 世 の仏教 紀 7 頃 0)

にみられる初唐絵画の影響を受けている)の説がある。(様式的には中国敦煌の莫高窟など

花を盛った盆を持つ人が描かれている。図②でも菩薩の左後ろで蓮(もしくは睡蓮)のられる。良い香りには悪を遠ざける力がある。られる、良い香りには悪を遠ざける力がある。とは「様すのではなく、香りの良い花を摘んで糸器に挿すのではなく、香りの良い花を摘んで糸器に挿すのではなく、香りの良い花を摘んで糸

しくは睡蓮)の花を手に持っている。図①の菩薩も、悟りを得た者の証として蓮(も蓮は、仏教においては悟りの象徴とされている。

開花を託していたのだろうか。生植物ではないかと思う。様々な花に、悟りの小さい方は丸い白色5弁花で、同じく熱帯の水くは不明だが、大きい方は白花の熱帯睡蓮か。図③の菩薩は2種類の花を持っている。詳し





出典:http://double-dolphin.blogspot.com/2015/12/photography-inside-ajanta-caves-tips-and-tricks.html



出典:http://kuradashieigakan.com/con34ajanta/ajanta3.htm

造形化されることとなったのだ。 地域を治めたことで、仏教の内容が仏像として 央アジアの民が、すでに仏教の栄えていたこの ダーラで、最初の仏像が造られるようになった。 北インドのマトゥラーとインド北西の王国ガン 像は造られなかったが、 そもそもインドでは釈迦の入滅後、長い間仏インドで生まれた仏教は各地に広まって行く。 ギリシャ・ローマ美術の影響を受けていた中 紀元後100年前後に、 長い間仏

菩薩像で手に水瓶を持っている。菩薩とは、 図④はガンダーラから出土した2~3世 菩薩とは更な 紀 0)

良

弥勒菩薩と考えられている。弥勒には慈しみとが、この像は未来で仏になることを約束された る悟りを得るために修行している人をさすの いう意味があるそうだ。優しいお顔である。 だ

図 ⑤ 。 で瓶の口に栓をしたと聞いたことがある。 中の浄水や香水を清らかに保つために、花や木さて、水瓶は修行者の大切な持ち物であり、 ŧ 釈迦の弟子が水瓶と花を持つ姿で彫られた像 中国の雲崗石窟に残っている(5世紀後半

い香りのする水と良い香りのする花を持っ

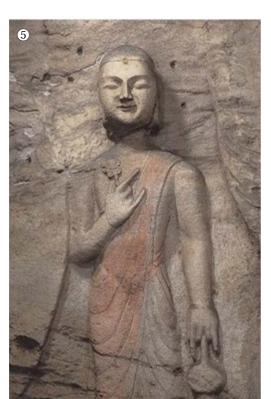
るための大切な役割があったのではないだろう また釈迦の教えによって人々の苦しみを和らげ かぶ。水も花も修業に欠かせないものであり、 て、 釈迦の教えを広め歩く弟子達の姿が目に浮

挿された像も現れる。 像に見られるが、中には手に持った水瓶に花が この水瓶もしくは花を持つ姿は、多くの菩薩

のには、 いつしか花瓶に花を挿して供えるようになった インドでは花だけを摘んで供えていたものが、 気候と植生の違いも関係したと考えら



出典: http://avantdoublier.blogspot.com/search/label/ 仏教 美術?updated-max=2014-09-26T05:02:00%2B09:00&maxresults=20&start=15&by-date=false



出典: http://arts.fgs.org.tw/fgs_arts/tw/pic_image_show.php?arg= FxFCWeoCwwZ5LqpsJgnd9EtatR38Zg

の弟子像は左手に水瓶、 中国山西省大同市の西方にある雲崗石窟は5世紀後半の石窟寺院。 右手に花を持つ 第 18 窟

道シルクロード探検の旅展図録より

弥勒菩薩坐像

2~3世紀

ガンダーラ出土

松岡美術館蔵

(仏教の来た

本の花とは性質が異なる。花もそれに応える強さを持っている。中国や日を好んで身につけているが、花は摘むもので、れる。今もインドの女性はジャスミンの髪飾りれる。

漠のオアシスだ。の西の玄関口。東西交易の要衝として栄えた砂の西の玄関口。東西交易の要衝として栄えた砂伝わり、中国に広まることになる。敦煌は中国仏教はインドから中央アジアを経て敦煌へと

目を引く。
図⑥は敦煌・莫高麗の壁画である。左手に水図⑥は敦煌・莫高麗の壁画である。左手に水

ている。

さいる。

がいると想像したい。やがて悟りを求める心の象
をは、慈愛に満ちた導きの顕れとして、水 徴として、慈愛に満ちた導きの顕れとして、水 かると想像したい。やがて悟りを求める心の象
いると想像したい。やがて悟りを求める心の象



出典:http://avantdoublier.blogspot.com/search/label/ 敦煌 ?updated-max=2012-12-18T05:02:00%2B09:00&max-results=20&start=30&by-date=false

いえいえ、レモンちゃんです。 観音菩薩立像? オベリスク? ロケット?レモンちゃん



撮影:髙田菜月

敦煌莫高窟 第45窟 南壁中央壁画。

盛唐・開元年間

蓮華が持たれていたのではないだろうか。回(713~741年)。水瓶を持つ観音菩薩。

右手

にも何か持っていたのかは消えていて分からないが、

8



グラジオラス

<9頁の花> 健一郎

花器 陶鉢一対(フランス製) 花材 グラジオラス(菖蒲科)

グラジオラスは江戸時代の終わりにオランダ人が持ち込んできた植物にオランダ人が持ち込んできた植物で、「阿蘭陀菖蒲」と呼ばれていた。園芸品種の生産が盛んで、白、ピンク、赤、オレンジ、黄色、紫や、青に近い色の品種までもある。今は年中花屋で売っているが、やはり旬のグラジオラスはしっかりとしており、勢いがある。

生花としてはれる。 本 生花としてはれる。 本 生花としてはれる。 本 本 の 本 の も の も の も の で まい。 、 本 を 正 手 く 切ってあるので、よく注 の た 上 手 く 切ってあるので、よく注 の れ た も の な の か 分 か ら な い 。 葉 先 を 上 手 く 切って あるので、よく 注 の れ た も の な の か 分 か ら な い 。 葉 先 な の か 分 か ら な い 。 葉 先 な の か 分 か ら な い 。 葉 た に 気 を つ け て 花 を 選 び た い 。

なっていている。
真を少し高く伸びやかにしたので控え、バランスをとっている。副の蕾が良いアクセントになっている。



器と花の相性

10 村10 月の花>

野_{萱んぞう}

<11頁の花> 仙溪

花器 陶花器 「百合科」 本報 野堂草(百合科)

まま切られて葉で括ってあった。解写真のような状態で、葉と花が株の立派なノカンゾウが手に入った。



ず紫陽花と合わせて伸びやかに投入 にいけた。(12頁の花) くとそのままで格好がいいので、ま

ら黄色くなってくるが、程良くアク 味を出してくれる。数輪あった蕾も セントになっている。 順に最後まで咲いてくれた。葉先か ていけたが、葉のねじれ具合がいい ゾウ一種で生花にいけてみた。初め 数日飾ったあとで、今度はノカン

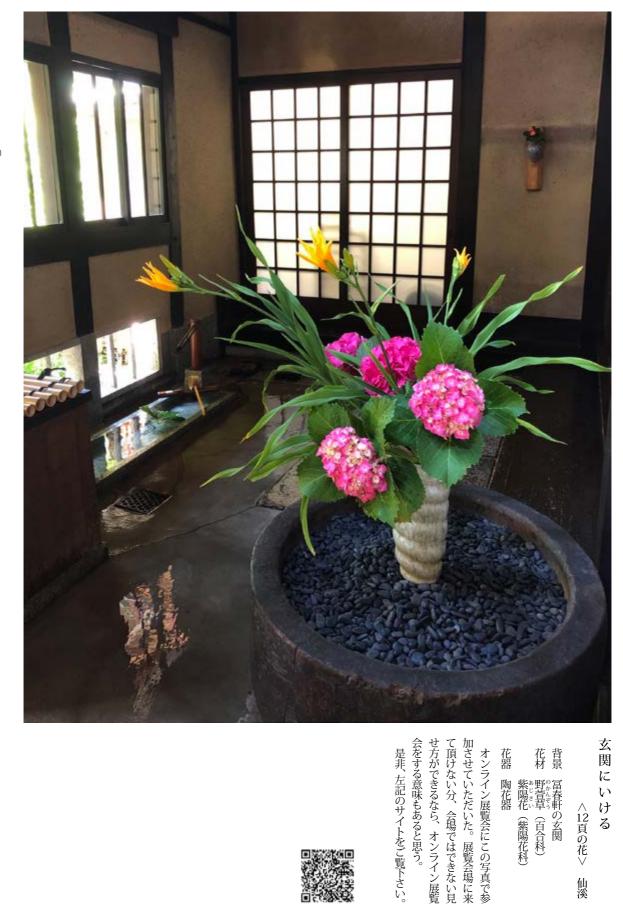
ウと、八重咲きのヤブカンゾウがあ る。人家によく植えられて、若芽と スレグサとも呼ばれる。 を忘れさせてくれるというので、ワ 花の蕾は食用になる。食べると憂い いつか、稽古で普通にいけられる カンゾウには一重咲きのノカンゾ

ようになれば嬉しい。



カンゾウの葉で括られていた。





玄関にいける

<12頁の花>

仙溪

野萱草(百合科)野萱草(百合科)

紫陽花(紫陽花科)

会をする意味もあると思う。 せ方ができるなら、オンライン展覧て頂けない分、会場ではできない見 加させていただいた。展覧会場に来 オンライン展覧会にこの写真で参 陶花器



いけばな 桑原専慶流 **プ イ ノ 2** 020 年 8 月号 No. 686

編集発行 京都市中京区六角 烏丸西入 桑原専慶流家元





花と器

仙溪

このところ、いけばな誕生以前の

められているようだ(8~9頁)。 造られたのは527年。先祖ととも れているように見える。その石窟が 花瓶に蓮の花と葉が生き生きと挿さ に未来での幸せを強く願う思いが込 偶然見つけた石窟内部の写真には

ガンダーラ、敦煌、中国へと伝わる花を散らす祈りの姿が、インドから 像している。 中で、「人の思い」が加わって、い つしか花と器を出逢わせたのだと想 仏前に香を焚き、香水をかけ、香

満たして花を挿すことになったので はないだろうか。 花を散らす代わりに空の器に花を入 象徴の祭器とが重なり合い、最初は 浄なイメージと、中国で先祖を尊ぶ に供えることを思いつき、器に水を れたのがきっかけで、香水と花を共 いけばな誕生の背景に、壮大な人 インドから伝わった蓮に対する清

類のロマンを感じている。

鉄線の生花

<2頁の花> 仙溪

花材 鉄線3色 (金鳳花科) 芸術(金鳳花科)

テッセンは自立しないので扱いが 耳付コンポート(宇野仁松作)



を持っている。 ると、生き生きと咲いてくれる強さ 難しい。けれども頼れる場所を与え

わった私の好きないけ方だ。 せかけながら生花にした。父から教苔木を土台にしてテッセンをもた 苔木の風格も生かせる器を選んだ。

温帯に育つバショウ

花材 糸芭蕉 (芭蕉科)

<3頁の花> 櫻子

紫陽花(紫陽花科) 紫陽花(紫陽花科)

花器 染付深鉢

かし暑い地方から来たのかと思って こんなに大きな葉を見ると、さぞ

染付けの大鉢にいけると花の藍色と 帯性なので京都でもよく見かける。 キュウバショウで、繊維を取るため 馴染んでとても涼しそう。 ナは熱帯性だが、イトバショウは温 に沖縄で多く育てられてきた。バナ 白いユリとアジサイを合わせた。 このイトバショウは別名リュウ



朝鮮槙の生花

<4頁の花>

仙溪

朝鮮槙(犬榧科) 陶花瓶(伊藤典哲作)

有の栽培品種だそうだ。 も朝鮮半島にも自生は無い。日本固 ら作り出された園芸品種で、日本に チョウセンマキはイヌガヤの変種か

センマキで、長持ちするのが有難い。 8月にいける生花といえばチョウ



横から見た奥行き

見越

◎行の花型

真

総囲



新聞紙 胴 副 見越 真 Δ 1 2/3 1/8 Ó 1/2

それぞれの枝の長さは左図のように 新聞紙を基準にするといい。

竹筒の中の部分







河骨の株分け生花

<5頁の花>

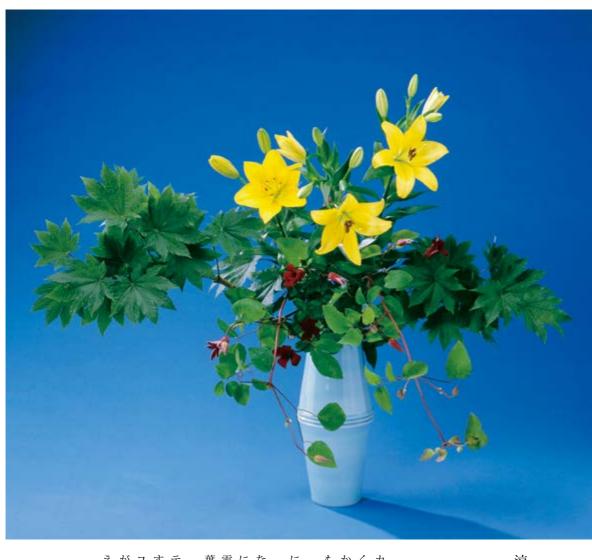
仙溪

花器 足付陶水盤 (伊藤典哲作) 花型 株分け生花 神野 (睡蓮科)

水辺の妖精のように咲く。小川などのやや浅い水底から生える。泥の中で横に伸びる白い根茎をる。泥の中で横に伸びる白い根茎を

がある。
だない。それでもいけたくなる魅力たない。それでもいけるが、長くはもたない。それでもいけるが、長くはもいかある。





涼やかな器

葉団扇楓(楓科)

青白磁花瓶(市川博一作)

カヤシなどのように、風が抜けてい かな緑の葉をみずみずしくいけるの くようなものが思い浮かぶが、爽や 涼を感じる花材にはフトイ、アレ

葉が良く映える。 雪解け水を連想させる。明るい緑の にこそ使いたい。淡い水色の表面は な器を選んでいる。青白磁の器は夏 作例では、まず見るからに涼やか

えてくれる。 が加わることで、カエデが軽やか見 す。そこへ、鮮やかな黄色のスカシ ユリを覗かせた。スカシユリの強さ テッセンを風を感じるように前へ出 まずカエデの青葉を広げ、ベル

<6頁の花> 仙溪

ベル鉄線(金鳳花科) 透かし百合(百合科)

そして、涼しげな風を感じるよう

花筏とイガグリスゲ

<表紙の花> 健一郎

花材 花筏 (花筏科 陶花瓶(清水美菜子作) 毬栗菅(蚊帳吊草科)

け、実になると写真のようになる。 イカダは花の真ん中あたりに花をつ 一度見たら忘れられない珍しい植物 どちらも個性的な花である。ハナ

のコントラストが魅力的である。 誤算である。2種でもよかったのだ ゲの実と真っ直ぐに伸びている葉と 持って帰ってきた。想定外の幸運な たはずだったが、この2つの鉢を が、桔梗を添えると緑が際立つ。 イガグリスゲは北米原産でトゲト ヒマワリを花屋さんに買いに行っ







水面を見せる

<7頁の花> 仙溪

陶深鉢(ドマーニ製)

ウギとも呼んでいる)は南アフリカ しているらしい。 だが、性質が強いので各地で野生化 原産の多年草。学名はクロコスミア で、明治の中頃に日本に入ったそう ヒメヒオウギズイセン(ヒメヒオ

ギズイセンと呼ばれているので混同 しないようにしよう。 (アメリカヤマゴボウとも呼ぶ)と に入ったので、ヨウシュヤマゴボウ で、ワトソニアという植物がヒオウ 立派なヒメヒオウギズイセンが手 ちなみに同じく南アフリカ原産

ルトで隠すと、水面を美しく見せら いけている。いけた後も剣山をフェ ツを置いた上に黒いフェルトを巻い た板を乗せ、その上に剣山を置いて この器は鉢カバーで、小さなバケ



仏教遺跡に見る花と瓶

2

仙溪

建てた。またこの時代に多くの宗派も誕生する。

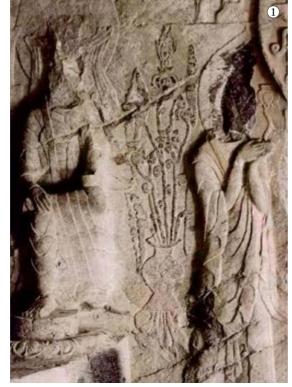
て、龍門や雲崗などの石窟寺院もつくられた。北朝の時代には南北ともに多くの仏教寺院を建 本格的に広まるのは4世紀以降で、 国 地域への最初の仏教伝来は1世紀頃だが 5世紀の南

たに仏教で国を治めるべく中国全土に舎利塔を時を経た後、中国統一を果たした隋の文帝は新6世紀に入ると内乱による廃仏廃寺の苦難の

『などける中、国禁を破って玄奘』三蔵がインド限を受ける中、国禁を破って玄奘』三蔵がインドをして7世紀、唐の時代。仏教が国による制 その後の東アジア仏教の基盤となった。 (天竺) へ旅に出て多くの仏典を請来したことが

済の聖明王から欽明天皇に仏像などが贈られた。『古本には538年(552年説もある)に百 が最初の仏教伝来とされている。 に 百^く

0)



出典: http://art.ifeng.com/2017/0731/3363934.shtml



出典: http://art.ifeng.com/2017/0731/3363934.shtml

器の下にも茎の足のようなものが見える。空中を漂っているようだ。 (527年完成)には、花瓶(?)に蓮の花と葉が立てられた浮彫が。 洛陽の南方にある龍門石窟は南北朝時代の5世紀末から400年に 約10万体の仏像がある。 北魏の孝明帝の時代に造られた皇甫朝時代の5世紀末から400年にわ 全体で一つの物語を見ているようだ(図②)。

三尊仏、小仏、

飛天、

眷に 族ぐ

(皇帝の一族)

などが彫られて、

どその皇后のつくった一対洞窟。

図③は蓮の花を持って進む皇族たちか。

(在位515~528)

公窟(527年完たって造営され、



出典: https://kknews.cc/zh-cn/travel/rr9394n.html

養を果たす。 に感銘を受けた聖武天皇が、東大寺大仏開眼供その200年後、華厳経(仏教経典の一つ)

受け止め方や表現の仕方は変化する。
せ、それぞれの民族的な背景によって、微妙に典となった。そして各地に伝わる過程において典となった。そして各地に伝わる過程において解釈され口承され、のちに多くの経達によって解釈され口承され、のちに多くの経達によって解釈され口承され、のちに多くの経達によって解釈され口承され、のちに多くの経済を持ち、そもそも釈尊の悟りは一つでも、教えを請う

いと融合があったと考えられる。 教伝来は在野の信仰、思想、慣習とのせめぎ合中国においても、朝鮮、日本においても、仏

し、一族の繁栄を願う気持ちが読み取れる。ことを思えば、蓮の咲く天界に先祖と共に再生で歴代の王が祖先の廟に酒を供えた祭器である図①の器は「尊」に似ている。尊は古代中国

穣多産を現すそうだ。

の一つを発見した思いでいる。うで、やがて日本のいけばなへと結びつく痕跡もで、やがて日本のいけばなへと結びつく痕跡限供養の花瓶(図⑥⑦)などに繋がっているよ眼供養の花瓶(図⑥⑦)、東大寺大仏開隆寺金堂天井等の装飾や(図⑤)、東大寺大仏開この蓮を挿した(ように見える)図像は、法

752年4月9日の様子だが、

東大寺の創建、

大仏の鋳造、

奈良の華厳宗大本山東大寺に伝わる「東大寺大仏縁起絵巻」

開眼供養の場面には蓮の花と葉(の造花)が挿された一対の金銅の花瓶を見ることができる。

太陽暦でいうと5月26日で、

ハスの開花には一月早い。

開眼供養や鎌倉時代の再建の様子などが描かれている。

(1536年)

は3巻からなり、

仏が乗っている。
生き中央の蓮の花には火焔宝珠のような中に小さな中央の蓮の花には火焔宝珠のような中に小さないろいろな開花の状態が彫り分けられている。

国宝法隆寺金堂展図録より。

法隆寺金堂西の間天蓋内部の火炎宝珠を戴く蓮唐草文。



出典:http://art.ifeng. com/2017/0731/3363934.shtml



出典:http://avantdoublier.blogspot.com/2014/09/blog-post_26.html



出典:https://www.wikiwand.com/ja/ 東大寺盧舎那仏像



出典:https://www.wikiwand.com/ja/ 東大寺盧舎那仏像

郎

私には最強の家元になるという大をな目標があるのだが、日を追うごきな目標があるのだが、日を追うごきな目標があるのだが、日を追うごとに課題が増え続け、ただでさえ遠いく。いや、私と理想像の距離を測り違えていたのだろうか。明確な定最強の家元になる事を難しくさせる。

私が思い描く最強の家元は誰かに 私が思い描く最強の家元は誰かに 自分が納得できればいい。つまり、過念 え納得できる。自己満足のようなもので自分が納得できるまで花と向き合えることが出来たらいい。そしてそえることが出来たらいい。そしてお か事はそうそうないが、果たしてお 難して伝えている。こんな幸せで有難して伝えている。私の個人の よく分からないでいる。私の個人の 欲望が満たされているだけな気がし ないる。

生け花を教えるにあたり、いけばなとは何かという事を考えるようにしている。現代、過去、これからのしている。現代、過去、これからのいけばなの解釈、美術的な、芸術的いけばなの解釈、美術的な、芸術的なたが詳しいのではないかと思う時人と話すと、いけばなを知らない人人と話すと、いけばなを知らないと思う時もある。花を生けることに専念すると、花り、いけばないないのではないのではないのではないの方が詳しいのではないかと思うにあたり、いけばなどは何かという事を考えるにあたり、いけばなどは何かという事を考えるにあたり、いけばなどは何かという。

には理解しがたい。 は理解しがたい。 には理解しがない。 には他の知識がふる、こだわりのある狭い世界観は人る、こだわりのある狭い世界観は人る、こだわりのある狭い世界観は人る、こだわりのある狭い世界観は人

気になるのだ。
いけばな以外の事にも興味があり、調べ物をしていると、いけばなり、調べ物をした偶然をきっかけに、ある。ふとした偶然をきっかけに、ある。からした偶然をきっかけばなり、調べ物をしていると、いけばな以外の事にも興味があ

花と向き合っている時だけが花と向き合っている時間ではない。花を向き合っている事と向き合うと何をまるのだ。花だけと向き合っている事にときには見つけられなかった花の姿ときには見つけられなかった花の姿ときには見つけられなかったでの姿ときには見つけられなかったでの姿ときには見つけられなかったでの姿ときには見つけられなかったれる。

こんな僕も23にして結婚をしたいこんな僕も24にして結婚をした。入籍を可に近所のマンションを借りてそる前に近所のマンションを借りてそる前に近所のマンションを借りてそる前に近所のマンションを借りてそともに少なくとも2、3年から10年ともに少なくとも2、3年から10年ともに少なくとも2、3年から10年と思っていたようだが、私のわがまと思っていたようだが、私のわがままにより5ヶ月で家元宅で暮らし事と思っていたようだが、私のわがままにより5ヶ月で家元宅で暮らしたわけである。二世帯での生活をしたわけである。二世帯での生活をしたわけである。二世帯での生活をしたいてくれた事には感謝しきれな承認してくれた事には感謝しきれな承認してくれた事には感謝しきれな

元である前に桑原健一郎である。の時間は無くなっていく。最強の家の時間を欲すれば欲するほどに妻とがランスだ。最強の家元になるためがランスだ。最強の家元になるためがランスだ。最いである。妻と自分の時間のない問題がある。妻と自分の時間のない問題がある。

妻といる日常の延長線上に最強の変元がある事を自覚しても、妻と見家元がある事を自覚しても、妻と見家にがある事を自覚しても、妻と見っている。自己研鑽に使う時間も大好きない。自己研鑽に使う時間も大好きな時間なのでバランスを取るよう意識をしている。家族は人間が社会生活を送る上で一番小さく、各個人を形成するものである。自分が不安定形成するものである。自分が不安定が成するものである。自分を満たす事から社会とのつながりはスタートするのだ。

毎日が楽しい。 お大切なわけである。妻との時間はが大切なわけであると日々をどう過ごすかことを考えると日々をどう過ごすか

妻と一緒に住む前から分かってはけれたが、いや、ここまであろう事とは分かっていなかったのだが、お互いに我がなんと強い事か。5ヶ月のいに我がなんと強い事か。5ヶ月のいに我がなんと強い事か。5ヶ月のいに我がなんと強い事か。5ヶ月のいに我がないでも、2人共が納得できそだが…。家元宅で晩御飯を食べていだが…。家元宅で晩御飯を食べていたことも原因としてあるが、お互いの正しい、好みを曲げない。お互いの正しい、好みを曲げない。お方々をものは置いていなかった。家元で暮らす2人の部屋のフローリンです。

を決めるだけで1ヶ月程もめた。キャンセルをした新婚旅行は行き先

を そんな中でも互いに肉への執着心を そんな中でも互いに肉への執着心家 は特に強い。一緒に食べている時に はどの胃袋を持ち合わせていないの くる。彼女は私の皿のお肉を食べる私を否定しての量以上の肉を食べる私を否定してである。初めの方は大きな声で食事である。初めの方は大きな声で食事である。初めの方は大きな声で食事である。初めの方は大きな声で食事である。初めの方は大きな声で食事である。初めの方は大きな声で食事である。初めの方は大きな声で食事である。初めの方は大きな声で食事である。初めの方は大きな方でないの方は大きな方が、彼女の情にない。大きなことでいるのが、

妻との時間は の中にしかないものだ。 てきた生活の積み重ねであり、そのに人を形成する 人らしさの集積である。他人の評価のではなく、自分が多いではなく、自分があるのだ。 こだわりとはその人が今まで生き

お互いがくだらない事にまでこだわりを持っているので相手に対して不満が生まれる。ただ、相手に対して持つその不満が、具体的であるため、その都度話し合う事で、優れため、その都度話し合う事で、優れため、その都度話しないほどの相手を想意見に従う事にしている。

表面的な同情の共感ではなく、違っでしまう事は非常にもったいない。して知らないで決めつけ、思い込ん生い立ち、経験の異なった相手に対私の理想としているものではない。

せるのは相手への好奇心である。広がっていく。そしてそれをそうさ理解しようとする事で自分の世界が理解しようとする事で自分の世界がある。

分を俯瞰してみることができずにど共感しかしない人が隣にいると、自 もの、認め合うものができるものは ると考えている。 2人が納得できる 界に専門性を帯びた先に何かが起こ うな関係であり、こだわりから解放 的な視点を忘れさせないためにも、 る人が横にいれば安心だ。私に客観 引にでも良い方向へ引っ張ってくれ やはり、特別な気がする。 され、究めることができれば最強の お互いの足りないところを補えるよ ち、背中合わせで広い視野を持って わくは、お互いに違う事に興味を持 がいてくれる事は非常に心強い。 私を真っ向から否定してくれる存在 の選択肢を広げ、間違っていたら強 ると背筋がゾッとする。私の行く道 なってしまうだろう。その事を考え んどん独りよがりの作品、人格に 夫婦なのかもしれない。互いに別世 私が、家元になった時に、同情や

円と円の重なりの限りなく点に近れ精円の共通項で知り合った私たい精円の共通項で知り合った私たいは相手の知らない世界を知っている。相手から聞く話の全てが新鮮でる。相手から聞く話の全てが新鮮でる。ここまで周りくどく話したが結婚した理由は妻がただ横にいたが結婚した理由は妻がただ横にいてくれる事が嬉しかったからだ。



為せる業

仙溪

陶花瓶

な白い花を咲かせ、風船状の実が蔓 性植物。熱帯の植物で、夏に小させいしょくぶっ が熟すと中の種にはハート型の白い からぶら下がって愛らしい。この実 模様が現れる。 アウセンカズラはムクロジ科の蔓

果皮は石鹸になる植物なので名前を 実は数珠や羽子板の羽にも使われ、キスト630号でいけている。黒い 覚えておきたい。 ムクロジ科のムクロジは以前にテ

せ、早くに紅葉したナナカマドを合 るには蔓を掛ける枝が要る。 さて、このフウセンカズラをいけ ナツハゼにフウセンカズラを絡ま

文化の為せる業だと感謝している。 が花屋に売られているのは、日本の 夏の緑と秋の紅。このような花材





いけばな **子 子 子 子 人 2** 2020 年 9 月号 No. 687

編集発行 京都市中京区六角 烏丸西入 桑原専慶流家元





草紫陽花

<表紙の花>

櫻子

狗尾草(稲科)

鉄線(金鳳花科) 草紫陽花(紫陽花科)

花器 金属装飾陶器 (モロッコ製)

草である事に由来してこの名前になった サイとは趣きが違っている。 ようだ。葉も互い違いに生えていてアジ クサアジサイはアジサイに似ているが、

が早く訪れる事を願う。 ただけで花全体が優しくなる。 ブドウやエノコログサと取り合せて秋

一輪添え



心の情景をいける

<2頁の花>

仙溪

花材 紐鶏頭(莧科)

沢瀉 (沢瀉科) 鶏頭 (莧科)

十角青色ガラス水盤

る(テキスト2011年10月号)。その花 辺の草花をとりあわせていけたことがあ 以前、黄色くなったオモダカの葉に水



ネの家族が楽しげに遊ぶ様子を想像して そんないけばなが大好きだ。 り物でない自分の心の情景を形にできる。 んだ大切な1作となった。花と器で、借 と文章を父・仙齋が褒めてくれた。キツ いけたのだが、私にとって、何かをつか

初秋の立花

<3頁の花>

仙溪

花型

害柳 (薔薇科)

電胆(竜胆科)

花器 陶広口花瓶 小菊(菊科)

夏の終わり頃から、色づき始めた葉や

シの実はこれからだんだん赤くなってゆ 真、副に使ったバイカツツジも艶のあ実物が花屋に出てくる。 く。秋風そよぐ季節ももうすぐだ。 る葉が赤くなり始めている。ヤブサンザ ユキヤナギで厚みを加えている。





春を生ける

<4頁の花> 健一郎

(ヤマモガシ科) 花材 ユーカリ(フトモモ科) ピンクッション

花器 陶水盤

ピンクッションは南アフリカを代 表する花だが、オーストラリアで 品種改良をしており、それが日本に やってくる。冬を終えて春を迎える オーストラリアの花たちを、日本で生けることができる。当たり前になりつつあるが、不思議な出来事である。 花屋では、春と秋が混在している。 市場刻に二つの季節が地球にある。 花屋では、春と秋が混在している。 花屋では、春と秋が混在している。 市場がの多様性がある。 その環境に馴生物の多様性がある。 その環境に馴りという。

意して選びたい。 変差させて固定する。ピンクッショ

ユーカリ本来の撓みを生かし足を

横から見た奥行き







お稽古もマスク着用でおねがいにゃ。



唐胡麻と鶏頭とうごましけいとう

<5頁の花> 仙溪

葉脈が伸びる。あまり保ちは良くな 微妙に色合いが違う葉に、赤く細い いが、貴重な傷みのない葉は、見て トウゴマの大きな葉、小さな葉。 唐胡麻(燈台草科) 陶水盤 鶏頭2種(莧科)

いるだけで心地よい気分になってく

ケイトウと生花にいけた。



風に揺れる

<6頁の花> 櫻子

M 矢筈薄(稲科)

九蓋草(胡麻の葉草科)グロリオサ(百合科)

陶花瓶

野生のグロリオサをインドで見たことがある。女性の奉仕団体のメンことがある。女性の奉仕団体のメンにあり、現地をバスで移動している時だった。空き地の草むらに赤い花が咲いているのを見つけた。真っ赤なグロリオサだった。

科に分類されている。
ユリで、ユリ科またはイヌサフランユリで、ユリ科またはイヌサフランクリカ原産の多年草。和名はキツネブリカ原産の多年草。和名はキツネグロリオサは熱帯アジアおよびア

グロリオサは体を支えるために、だが、葉先のクルクルも愛らしい。だが、葉先のクルクルも愛らしい。だが、葉先のクルクルも愛らしい。だが、葉の草むらで見たイメージでインドの草むらで見たイメージでクロリオサをいけてみた。

しに薄紫のクガイソウを加えた。いていた赤い花と重なる。色の効かいていた赤い花と重なる。色の効かいズススキと投入にすると、野原でハズススキと投入にすると、野原でグロリオサの葉を丁寧に残し、ヤ



コボウズオトギリ

花材 ヒペリカム (弟切草科) ガーベラ3色(菊科) <7頁の花> 櫻子

ヒペリカムは赤い実を小さなお坊

花器 デルフト陶花瓶

の模様を雲と見れば、雲海を下に見 しげな青い絵付けの花瓶を置く。器 赤い敷物は灼熱の大地。そこに涼

年の夢だったと目を輝かせて教えて 真を眺めていて思い出した。 くれた。そんなことを、この花の写 くれた運転手も翌朝丸坊主で現れ 聖なる山の宿坊に各地から巡礼者が た。この地で坊主頭になることが長 も含めて家族全員だ。私達を運んで 皆、決まって頭を丸める。乳飲み子 何日もかけて集まってくる。そして ズー教の聖地を訪れたことがある。 以前、インドの高地にあるヒン





『小作の着眼点』

ヒマワリに表情を

<8頁上の花> 健一郎

花材 向日葵(菊科)ヒペリカム(弟切草科) 金属装飾陶器(モロッコ製)

なかった。一番立派なヒマワリを長 く控枝に置いた。 にここまで惹かれるとは思ってもみ ヒマワリは大好きだったが、後ろ姿 リ、枯れたヒマワリ、花弁が散った 姿の綺麗なことか。横姿のヒマワ 合った。回しながら見るとなんと後 言葉である。まず、ヒマワリと向き い植物の姿を魅せるといい」家元の 「小品花は普段魅せる事ができな

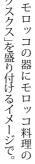


横から見た奥行き

伸びやかなヒペリカム <8頁下の花> 櫻子

花材 ヒペリカム (弟切草科) 金属装飾陶器(モロッコ製) 向日葵(菊科)

てくる。 くすると、ヒペリカムの動きが生き ヒマワリを低く、ヒペリカムを高





「クスクス」を盛り付けるイメージで。

郎

3年ほどラーメン屋さんでアルバイトをしていた。ラーメン屋さんでイトをしていた。ラーメン屋さんで人気のあるラーメン屋で、お客さんへ客をするラーメン屋で、お客さんへの配慮が行き届いているのが特徴である。だが22時以降になると愛想のある。だが22時以降になると愛想のある。だが22時以降になると愛想のある。だが22時以降になると愛想のある。だが22時以降になると愛想のある。だが22時以降になってしまり。

私が働いていた時間帯は22時から 私が働いていた時間帯は22時から閉店の3時までにかけては従業員の疲労がピークになってくる。「しんどい」「疲れた」「なんでラーメン権では員さんから一番聞きたくない言葉である。そんな中、頭のネジが足りていない僕は何に対してもがが足りていない僕は何に対してもされることなく、自分の接したいよされることなく、自分の接したいようにお客さんとお話をしていた。

使っている。ちょろいと言っている余裕がありますよ。という意味でたようにみんなが真似をしていっうようにみんなが真似をしていった。「ちょろい」という話言葉は、た。「ちょろい」という言葉があまり

て、すぐ持っていったら良いやん。」ラーメンをこぼしても、「ちょろいっつ声が「ちょろい」に変わっていく。一声が「ちょろい」に変わっていく。と、一日中笑顔の絶えない感じのいと、一日中笑顔の絶えない感じのいと、一日中笑顔の絶えない感じのい

従業員同士で癖のようにちょろい 従業員同士で癖のようにちょろいが先と言い続けていると、ちょろいが先ちょろいという言葉が絞られてくる。ちょろいという言葉は、ラーメンがこぼれた事と向き合うのではなく、こぼれた事と向き合うのではなく、こばれた事と向き合うのではなく、こばれた事と向き合うのではなく、こばれた事と向き合うのではなく、こばれた事と向き合うのではなんでも軽視する悪いが、楽しくアルバイトをすることができた。ちょろいと言ってしまうとなんでも出来そうな気がすしまうとなんでも出来そうな気がする。世の中をなめていた大学生の口癖がラーメン屋の雰囲気を少しだけ変えたのだ。

だろうか。 言ったら言い過ぎになってしまうの

が無かったようにすら思えてくる。キラとした乙竹さんにしかなりようば聞くほど、自信に満ち溢れてキラば聞くほど、自信に満ち溢れてキラ

人に影響を及ぼし、その人を形づきているのか、人へ伝える言葉はそ自分の周りの言葉がどんな言葉ででもないるのか、人へ伝える言葉でである。といいのが、といいの人に影響を及ぼし、その人を形づいた。

グループホーム(認知症対応型共を与えている。

必死に抵抗するが、人間らしくてい 生(職員)は日本一や!!」「ここ 今はおおむこうにいらっしゃる、お は、利用者が職員を動かす力である。 他の利用者からも気をかけられてお 葉だった。すべての職員だけでなく と思うほどに、深い感情を込めた言 んな。」言葉が彼女の全てであった わると、「ほんま、おおきに。ごめ 幸せや。」トイレ、入浴の際には で頂くご飯はみんな美味しい。」「私、 での出来事と全力で向き合う。「先 ばあちゃんであった。彼女は目の前 るのだが、私が働いていて驚いたの いと誰もが思わさせられる。事が終 て影響を与えていることは確かにあ 職員が利用者に対して言葉によっ

いつでもいた。り、私の働いているフロアの中心に

しか世界を見ることができない。なぜなら、言葉を使わずしてない。なぜなら、言葉を使わずしてない。なぜなら、言葉を使わずしてない。なぜなら、言葉を使わずしてない。なぜなら、言葉を使わずして

私は恵まれている。沢山の素敵な言葉を浴びて育った。自分で言葉を選択できるようになるまでは言葉を選ぶ事ができるようになると、その後を選ができるようになると、その後を選がすができるようになると、その後を選が

私は問題に直面した時の口癖はある程度限定されていると考えている。それは問題が起こった時、とっさに出てしまう言葉のことである。さい出てしまう言葉のことである。さい出でしまう言葉のことである。

では、自分の理想と そもそも問題とは、自分の問題のみで とができるのは、自分の問題のみで とができるのは、自分の問題のみで とができるのは、自分の問題のみだ。 出来ない問題は他人の問題のみだ。 解決 がなことはない。他人の問題を自分が なことはない。他人の問題を自分が

の問題は解決する。問題と出会った対して柔軟に自分が変わることでそ対して柔軟に自分が変わることでそ

か思考でき 問題への反応、問題への対応のサイも小さくもなる。問題だと思わなけアの中心に 時の自分の反応次第で問題は大きく

クルが自分を形作る。

今の私の口癖は今、2つある。十つの頃と変わらない。私は解決が困生の頃と変わらない。私は解決がが、余裕だと思って取り組んでいたが、余裕だと思って取り組んでいたが、余裕だと思って取り組んでいたが、余裕だと思って取り組んでいたが、余裕だと思って取り組んでいたが、余裕だと思って取り組んでいたが、余裕だと思って取り組んでいたが、余裕だと思って取り組んでいる。日難なり、反射的に出てしまう。と、それが解決できると、それが解決できると関係にといる。日本の場と、名は解した。

2つ目は「最強の家元」である。何年か言っていると家族から心配をされるようになった。最強の家元やねんろ?自分ばっかりお肉食べてんと人にあげや!!」「最強の家元やったら朝ゴミ出すねんで!」「最強の家元やったら朝ゴミ出すねんで!」「最強の家元やったら朝ゴミ出すねんで!」「最強の家元やったら朝ゴミ出すねんで!」「最強の家元となるものではなく、ならさせてもらうものなのだろうか。

考えるのも面白いかも知れない。今一度、自分の使っている言葉を

古代インドの蓮のイメージ

仙溪

ジがあるが、 る中における悟りの象徴という清らかなイメー と言われるように、 ハス(蓮) ハスがどのような意味を持ったのかを探っ そもそも仏教が伝わってゆく過程 は 「泥より出でて泥に染まらず」 ハスは清浄と不浄が混在す

釈迦の死を「涅槃」というが、涅槃とはあらゆ い。まずはインドの古代遺跡にハスが登場する。 槃の象徴として、 悟りの世界のことをさす。 る煩悩が消滅し、 苦しみを離れた安らぎの境地、 釈迦の遺骨 インドにおいては涅 (舎利) を祀るス

として、

ハスの模様が多く見られる。

鉢は「子宮」や「卵」と同一視され、万物が生そこに納められた舎利は「種子」、それを覆う覆えいより。 ストゥーパは丸い鉢を伏せた形をしていて、 ずる宇宙の始原的な意味合いを持つ。 ているのだが、 た力強い生命力を表現した様々な装飾も彫られ れらに釈迦にまつわる物語が彫られている。 トゥー ストゥーパの周囲は石の門や玉垣で囲われ、 (舎利塔)を建て、信仰の拠り所とした。 煩悩の無い生命の輝きそのもの ま そ

生じるハスの生命力に、 を二股に枝分かれさせながら節々から葉や花を 地下茎は水面下で網のように伸び広がる。 ハスは水から生まれ次々に花を咲かせ、 古代インド人は魅了さ 根茎 その

(1)

出典:『仏教美術のイコノロジー』宮治昭 (吉川弘文館)

バールフト遺跡(インド中部)。 らハスが生え出る様子。誕生と生成の模様で 壺に満たされた生命の根源としての「水」か (プールナ・ガタ)」と呼ばれている。



出典:『仏教美術のイコノロジー』宮治昭 (吉川弘文館)

生命の花であり、 華を一周している。ハスの花は太陽の花であり、 バールフト遺跡 丸い壺から出る蓮華蔓草が、 (カルカッタ・インド博物館)。 増殖の花である。 中央の開花した蓮

出する蓮華蔓草。サーンチー遺跡、

第

一塔東門。

発

マカラ(インド神話に登場する怪魚)の口から

表現されて、まるで蓮一色のいけばなのようだ。図①の浮彫は蕾、開花、実、葉が生き生きと 様で「満瓶」 る。古代インドで大層好まれた誕生と生成の模 たされた水からハスが生え出る様子を表してい の「水」の表現であって花器ではない。壺に満 しかしこの丸い壺は生命が生まれる根源として (プールナ・ガタ)」と呼ばれている。

飾文である。(図②③) 「蓮華蔓草」は、生成と増殖を象徴する重要な装分かれしながら花、葉、水鳥などで埋め尽くす また、ハスの茎を波状に表して、 節々から枝

意味を持つことになる。 てのハスは、やがて中央アジアや中国では別の インドにおける誕生、 生成、 増殖の象徴とし

参考図書:『仏教美術のイコノロジー』 宮治昭著 (吉川弘文館



桑原事産流いけばなテキスト1962~ 1 B ¥ ŕ 14 4 * * + 13

https://kuwaharasenkei.jp/tekisuto/

本棚から本を選んでください。年別と月別の2種類の本棚があります。

た。 刊誌として発行を始め、58年間続いています。この度、『テ 『桑原専慶流いけばなテキスト』 桑原専慶流『テキスト』は13世家元が昭和37年10月から月 50年分公開(1962年~2012年) ※ 京都市文化芸術活動緊急奨励金対象事業

パソコン、タブレット、スマホで自由に閲覧できます。 キスト』50年分の生け花写真と解説、随筆をデジタル保存し、 公開することにしました。インターネットに繋がっていれば、 新型コロナウィルス感染症の影響で様々な活動が制限され ぜひとも気軽にページを捲ってみてください ゆっくり過去を振り返る余裕が生まれて実現できまし (パソコンではアドレスを入力して下さい)↓

D 社 (1-4) 刘朝明明章 テキスト H ニテキスト 묫 · Dawie ₹ D . 0 ED4 Q H 4 A EA + H (HEX (OH) (BOH AHR TTRAK (CHE AN) 9/27

- パソコンで見た1962年の『テキストNo.1』。本のページをめくるようにご覧いただけます。 1
- どこを開いていても最初のP2に戻れるボタン (画面上部にあります)
- 本棚に戻れるボタン (P2上部にあります)

品記録、 個人情報に配慮し、 は公開していません。 師範者名、 出品者名など 集合写真や出 *

たり、公開する内容を、生け花写 『テキスト』のデジタル公開にあ 真とその解説、いけばなに関する 家元関連記事のみとしまし





スマートフォンの縦向けの場合、 1ページずつご覧いただけます。 スマホやタブレットでは、下の QRコードをカメラで読み込ん でください。





同系色の組み合わせ

<12頁の花> 仙溪

花材 ビバーナムの実 (忍冬科) ガラス花瓶 透かし百合(百合科)

(スウェーデン製)

「花遊び」の一つだ。 ゆく文章を添えている。ホッホチャ 山をつくって、秋山へモミジ狩りに 父・仙齋が自動車の切り絵を貼った たナナカマドをとり合わせていた。 た実には葉が無かったので、紅葉し を今も時々思い出す。プリッと熟れ も落ちそうなよく熟した艶やかな実 い実をいけているが、その時の今に ンとケンチャンの会話から生まれた (ホッホチャン) がビバーナムの赤 テキスト2003年10月号に母

るので、次はどんな風になるのか楽 との思いで、毎回工夫を凝らしてい 者にも花に関心を持ってもらいたい チャンと一緒に花遊びを引き継い しみにしている。 真を載せている。彼らと同世代の若 で、2年前からインスタグラムに写 今ではそのケンチャンが、ナッ

ラス花器の色の繋がりが色彩的効果 を生んでいる。同系色の濃淡の組み 上の作例は実の色とユリの色、ガ

編集発行 京都市中京区六角 烏丸西入 桑原専慶流家元





足で生ける

<表紙の花>

健一郎

女郎花(女郎花科) 花材 矢筈薄(稲科)

花器 陶花器

秋海棠 (秋海棠科)

滝を見に行くと、シュウカイドウと出会う。小さな滝の時には出会わない。荘厳な滝の時のみに出会える。シュウカイドウさんがたくさんいらっしゃる時は大きなどんなに大きな滝なのだろうと想像が膨らむ。日が当たりすぎず湿度の高い所が好きみたいだ。あまり水が多すぎる所も好まないようで、ピンク色の花が虫や私を惹きつける。

をある程度表現する事ができた。
うちに方々を見て回るつもりだ。
矢筈ススキと女郎花、花器、バック紙、自分の経験に基づいた世界観ク紙、自分の経験に基づいた世界観







蜀^もろこし 竜ゥムビゥ 胆ゥ

<2頁の花>

仙溪

花 花 材 型 昭 蜀黍 (稲科) 田本 生花 二種挿し 竜胆 (竜胆科)

花器

飴色釉陶水盤

にかかれない。 の生花。こんなモロコシは最近お目 葉つきのモロコシ5本と竜胆4本 (2012年10月号より)



<3頁の花>

花器 "燻燒陶水盤(矢野款一作)花材、紫苑(菊科) 花型 生花 真の花型

復活してほしい。 は真、胴、控に。初秋の花材として 紫苑の葉9枚と花3本の生花。花 (2008年10月号より)





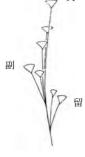
重陽の節供

健一郎

花粉 媒竹竹筒 花材 菊 (菊科) 花型 生花 真の花型

旧暦と新暦。生活していると食いが顕著に現れる。自然のサイク違いが顕著に現れる。自然のサイク。

から始まる菊の季節を謳歌したい。けてもスッキリと入っている。これけてもスッキリと入っている。これ写真の菊も蕾だったため、七本生





鈴バラ

<5頁の花> 仙溪

鈴薔薇の実(薔薇科) 薔薇(薔薇科)

スプレー薔薇(薔薇科)

陶花瓶

栽培、出荷されている。 年から北海道深川市の特産品として 「スズバラ」は流通名で、昭和52

ロサ・セティゲラ(北米原産)

ロサ・グラウカ(ヨーロッパ原産)

であるらしい。

とか「大草原のつるバラ」と呼ばれ ティブ・ローズで、「大草原の宝石」 る野生のバラである。 ロサ・セティゲラは北米のネイ

灰色で、カラーリーフとしてガーデ 一つで、山岳地帯のワイルド・ロー ニングに人気がある。バラの原種の ロサ・グラウカの葉は紫がかった



ロサ・セティゲラ

出 典:https://www. prairiemoon.com/ rosa-setigera-illinoisrose-prairie-moon-nursery.html

ロサ・グラウカ

典:https:// hokkaido-life.info/ rose20160618.html









キササゲの実

出典:https://blog.goo. ne.jp/koizumi-masato/ e/0e7fefac6834ba77d 85f79a71de44097





は古くに渡来している。

風に揺れるコスモスの優しい花色

から綿毛の生えた種が風で飛んで行 下がっている。この実が裂けると中サゲのような細長い実が冬の間ぶら け、秋に大きな葉が散ったあと、サ

く。中国原産の落葉高木で、日本に

キササゲの花

出典:https:// midori7614. exblog. jp/18171111/

木大きさり

<6頁の花> 仙溪

木大角豆(凌霄花科) 花材 秋桜(菊科)

近所の公園にキササゲの木があ

陶コンポート



< (7 頁の花 > 櫻子ビキーニョという唐辛子

実りに潤いを与えてくれる。 実りに潤いを与えてくれる。 実りに潤いを与えてくれる。

横から見た奥行き



#未来デザイン

文化の未来時評 #5 制御から尊敬へ

2020.08.28 Text by 西村勇和

人よりはるかに長い歴史を持つ花。その花の生を生かす「いけば な」には何があるのか。花と人との関係から、見えてくるものは一。



6月から始まったデジタル情報サイ 京都新聞社の新事業として、今年

ていただきました。 受け、いけばなへの思いをお話させ ト ー T H E K Y O T O 」 の 取 材 を させる空間を作るのが、いけばな 「花と協力して、何か人をほっと

の究極の姿です。だからこそ、花

ニークなサイトです。是非一度、 いて見てください。 文化の力を未来に生かすためのユ 僕はいいとは思わない。」 を敬う気持ちがないいけばなは、 覗

インタビュー協力 THE KYOTO 文化の未来時評 #5 制御から尊敬へ』

とサイトに行けます。

下のQRコードをスマホで読み取る





ヒオウギの実とレモンちゃん。 鉢植の檜扇が7月から9月末ま で咲き続け、実もできました。 このあと漆黒の種「ぬばたま」 ができるのが楽しみです。



T H E 文化を知る。 K Y O $ar{\mathbf{T}}$ O

掛け

花

仙溪

世界を変える。

知り、未来を考え、育てる。 京都ならではの視点で、文化を アートのプラットフォーム。 ンディングを柱とする、文化・ メディア・サロン・クラウドファ

> ベル鉄線2種 (野中春清作

と下向きに咲く濃い青紫色の け花。上向きに咲くピンク色 9月2日に撮った玄関の掛

る不思議な器だ。

いけた花が生き生きとしてく で自然の息吹が感じられる。 すっと口に挿すと、それだけ たちを水切りして、無造作に 品があり形も優れていて、花 ベルテッセン。 器は志野の小さな壺だが、

花を飾る場所 仙溪

糸芭蕉 (芭蕉科)

常に花を飾っている。お客様には り、朱塗りの大きな円卓を置いて いけた花や「テキスト」の撮影で 目的にはあまり使わないこともあ 建てられた部屋なのだが、本来の てもらえるようにしている。 稽古に来られた時にできるだけ見 なと思っても、置き方を工夫して、 花を飾っている。少し多すぎるか いけた花がある時は、あちこちに に花がいけてある。稽古の見本に 下の写真はもともと茶室として 私の家では仕事柄、常にどこか

けばなとはそんなものなんだと思 れていると、こちらの心も心地よ あるはずだ。花が居心地良く飾ら 空間だからこそ感じられるものも い。シンプルなことだけれど、い ことだろう。しかしゆったりした 改めて考えると、なんと贅沢な 部屋はほぼ花のための部屋になっ 別の座敷にご案内するので、この

えると再び輝き出すから不思議だ。 た花や葉を整理し、新鮮な花を加 こまめに水を入れ替え、悪くなっ

ガラス鉢 アンスリウム(里芋科) モンステラ(里芋科)



(敦煌)を経て中国 仏教がインドか 瓶に花を挿す行為のはじまりの一つを見つけら そうすれば仏前供花のルーツに辿り着き、うに変化してきたのかを知りたいと思った。 までに、 を経て中国へ伝わり、 ハス(蓮) からガンダーラ、 に対するイメージがどのよ その後日本に来る 中 央アジア 花

> い 0)

があったのだろう。 そもそもインドでは植物に対してどんな思い れるかもしれない。

対して特別な思いがあったようだ。 て生き返るところに、 ことのない創造力を感じ取っていた。 いったん葉を落として死んでも再び葉をつけ 仏教が生まれた古代インドでは、 神秘的な生命力、 まず樹 尽きる 大に

そして繁殖力の旺盛な特定の樹木が聖樹とし

に、

(1)

て崇拝された。

ていた

(写真②)。

釈迦の生涯と関係の深い聖樹

誕生、

成長、

増殖、

中

[紀頃のもの。 バンヤン樹(ベンガルボダイジュ) 枝から財布や果実、蓮などが垂れ下がる。 インドのベースナガルで発見された紀元前2 写真①は生命の樹「如意樹」を表す柱頭彫刻で、 願

幢幡・傘蓋・五指印(掌印)・音楽・右繞ったらに詳しく云えば、香・華・塗香・ 「燃燈」「散華」「伎楽」などが、そのまま仏教に仰があり、人々が行っていた供養の仕方「焼香」 り)などの供養法は、 おいても引き継がれている。 ていたものが、 対しても同様に行われるようになった。 古代インドではもともと聖樹に対する民間 舎利を納めた仏塔(ストゥーパ) 聖樹(の祠) 塗ず う香さ に対して行っ う 燃 と り (右周

初期 釈迦は釈迦の居場所である樹木で表現されい別の仏教美術において釈迦の伝記を彫る時

(2)

のものを与えてくれる樹だ。

死滅、 ところで繋がっている気がする。 があることは、今日の私達のいけばなとも深い で釈迦の存在を表すことで、 真理を悟った釈迦と聖樹を重ねたのだろう。 仏教の根底に古代から続くインドの聖樹信仰 再生という生命の循環をつかさどる宇宙

達が花をいけるときにも持っていたい思う。 り、その長としての樹木を畏怖し尊ぶ心は、私みを授かる。人は生きとし生けるものと共にあ 聖樹の元では人も動物も植物も平等にその 恵

の入った器に花を挿した僧侶がいたのかもし 影響を受けて、植物に対する尊厳の心から、 いつか、どこかで、 古代インドの聖樹信仰 に 水

私達にとって、 インド人の植物に対する思いに学ぶのも、 大切なことではないかと思う。 今

カルカッタ・インド博物館入口の如意樹

出典: http://kosoken.blogspot.com/2015/01/blog-

post_20.html

エーラパトラ竜王の礼拝 紀元前1世紀初 バールフット出土 インド博物館蔵 聖樹と台座で釈迦 (ブッダ) を表して いる。

出典: https://www.waseda.jp/flas/rilas/assets/ uploads/2016/10/Rilas04_291-301_Tadashi-TANABE.pdf

的に何かを生産することはない。

郎

ろうか。人が生きる事に意味などな 生き物として正しい事なのだろう く、次へと命のバトンをつなぐ事が 立ち生きる事が有意義な人生なのだ 生まれたわけではない。社会の役に なんのために生きているのだろ 自分の意思で生まれてきたくて

と思い込んでいた。 に何かを伝える事が意味のある事だ の中の自分を意識し自分を鍛え、人 グループホームへ入るまでは社会

ら最も近しい肉親を守る行為、社会 変わってしまい、自分という存在か 思っていた。 任感がそうさせているとなんとなく 的な観点から見れば義務であり、責 が脳に障害を負い、姿形は同じだが 思いのおかげであると思っていた。 今までお父さん、お母さんだった人 る。利用者が生きているのは家族の ループホームで働いて感じた事であ 勘違いを恐れずに告白する。グ

向けていた。利用者の存在が職員の 発達しすぎた現代医療について目を を促しているが、利用者自身が主体 雇用を生み、社会を刺激し生産活動 そして、人を死なす事ができない

> ことは、自尊心を大きく傷つける。 な事までしてもらって。」とお話が 出しにくくさせているのかもしれな るが、無くなった自信がそれを生み 自分の存在意義を何度も何度も考え 助けなしに生活する事が難しくなる ずつできる事が減っていき、他人の き、子供を育てたほどの人が、少し の身の回りのことが当たり前にで に考える利用者は多い。今まで自分 齢的なこともあり死について日常的 い。なので介助中に「堪忍ね、こん う充分、生かさせてもらってん」年 「私いつまで生きるんやろ?私も

> > えるようにしている。 あれば、私は「順番ですよ。」と答

一年同じ場所で過ごすうちに利用

そらくグループホームでの日々の積 をした。きっかけは分からない。お とでも言おうか。摩訶不思議な体験 敵なものだと感じられたことはな を持つようになった。毎日そこに利 変化が私に現れ始めた。特別な感情 のようなものがなくなっていく感覚 同時に自分と人の間にあった境界線 い。人を素直に認める事ができたと たのだ。存在がこれ程ありがたく素 用者の方がいる事が私を嬉しくさせ 者と日々を過ごすうちに抱く感情に

とう。」ではなく「居てくれて在り と同じであるからだ。何もしていな 相手への言葉の根底は自分への言葉 難う。」自然とそんな気持ちが湧き 分に対しても「~してくれてありが できた。相手に対してだけでなく自 い、ただいるだけの自分を許す事が 自分の事も許せた。何故ならば

> の現れだと自信を持って言う事がで は自信のなさの現れではなく、趣味

であると、自分の価値を社会の中に 人に価値を届ける事が人生の意義 み重ねがそうさせた事だけは確かで

相手の存在を認める事ができる

は私には必要ない。今、

自分の本棚

例えば読書がそうである。興味はな

を取り繕っている事に気がついた。 死に価値のある自分になろうと自分 しか見いだせずにいたのである。必

いが必要そうな本を買っても、それ

「生きている事が生き甲斐です。」 恥ずかしくて声を出すのに数秒か はなんですか?」と質問を受けた。 かったが自然と口から出た答えだ。 お弟子さんから「先生の生き甲斐



今年の夏の自然体験。滝に打たれてみた。 衝動を大切に、したい事をする。 健一郎 (撮影:菜月)



仙溪

パンパスグラス(稲科) ダリア2種(菊科)

ホーロー鍋(ルクルーゼ)

ンジ色の鍋は家族団欒の象徴だ。秋ら器や鍋にも花をいけられる。このオレ てきそうだ。 アをいけると、和やかな会話が聞こえしい穂を2種類に、鮮やかな色のダリ 使ったあと汚れを落とせるなら、食

くれること。他にも色々ありそうだ。 こと。季節を味わい、心を豊かにして 術が必要なこと。器との調和が大切な の鮮度が大切なこと。素材を生かす技 ちらも自然からの恵みを扱うこと。そ では違いは何だろう。料理のように 料理といけばなは共通点が多い。ど

ないが、いけばなはいけている時も、 いけた後も、花との対話が楽しめる。 人の胃袋を心地よく満たすことはでき これから花の保ちが良くなっていく。





いけばな 桑原専慶流 2020年 11月号 No.689

編集発行 京都市中京区六角 烏丸西入 桑原専慶流家元









タカサゴユリの花 出典:https:// ユリ .net/ ユリ - 品種 / タカサゴユリとは? .html

高砂百合は種子を多くつけ、風

た梅花躑躅に、盛りの鶏頭がよく映でを終えた実と、葉の役割を終え が、ふとした時に道端でも出会う事 識しなければ見つける事ができない 大勢で私を迎え入れてくれた。 で高知の牧野植物園へ行った際に、 に運ばれて広がっていく。高速道路 花の季節が終わると実になり、意

では、からでは、 一般では、 一

<2頁の花>

健一郎

陶花瓶

鶏頭2色 (莧科)



ミノコムラサキが正確な名前らし

シロシキブと呼んでいるが、シロ

小さな白い実が美しい。

花器 手付籠

水引草(蓼科)水引草(蓼科)

シロシキブの実

<3頁の花>

桜子

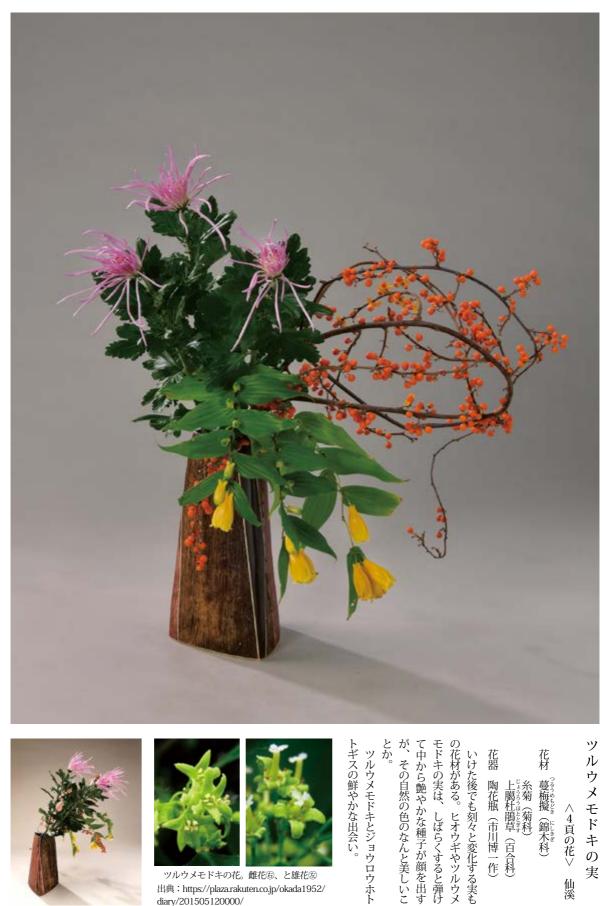
合っているようにも見える。 いるようにも、互いに助け合い讃え い実と白い花が白さを競い合って 白花のホトトギスを加えると、白

赤い花のミズヒキソウが優しく寄



シロミノコムラサキの花 出典:https://www.ootk.net/cgi/shikihtml/shiki_818.htm









ツルウメモドキとジョウロウホト

ツルウメモドキの花。雌花甸、と雄花匋 出典:https://plaza.rakuten.co.jp/okada1952/diary/201505120000/

ツルウメモドキの実 <4頁の花>

て中から艶やかな種子が顔を出す モドキの実は、しばらくすると弾け の花材がある。ヒオウギやツルウメ いけた後でも刻々と変化する実も 陶花瓶(市川博一作) 上臈杜鵑草(百合科)糸菊(菊科)

仙溪



ローゼルの実

<5頁の花> 仙溪

ローゼル(葵科)

器 陶花器

菊2種(菊科)

ローゼルは赤い大きな蕾に見えるが、中には既に実ができている。珍が、中には既に実ができている。珍たので、多めに買い求めて秋色の菊たので、多めに買い求めて秋色の菊たので、今後も葉付きで出てくも良いので、今後も葉付きで出てくるのを期待している。

楽しみ。秋のいけばなの醍醐味。添えている。意外と知らない花の姿。添えている。意外と知らない花の姿。でれぞれ材への愛着が増してくる。それぞれ材への愛着が増してくる。それぞれが、の質量などのではない。





ローゼルの花 出典:https://www.toukagen. com/?pid=126322305





ウラジロノキの花 出典:http://hanasan.dreamlog.jp/ archives/52106298.html



キミズミの花 出典: http://www.okadanouen.com/ zukan/kimizumi.html

今回はキミズミとしておく。 木は他にも色々ある。

キはアズキナシ属。似た実のできる だったかもしれない。確信はないが ので、もともと黄色く熟すキミズミ るが、ウラジロノキの実は赤く熟す こし橙色に色づいてきたと書いてい 黒写真で掲載したもの。いけた後す キミズミはリンゴ属。ウラジロノ 以前、ウラジロノキの実として白 (2009年11月号より)

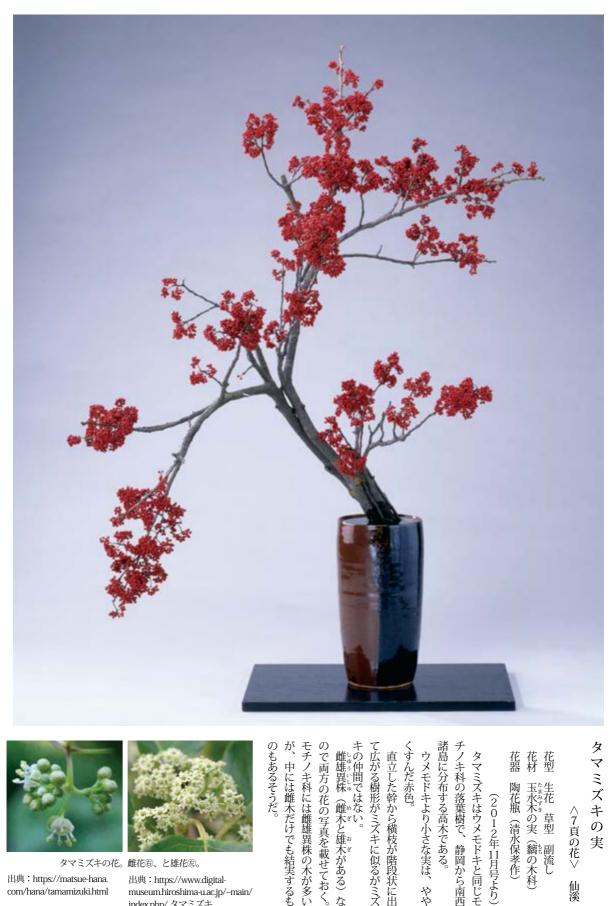
黄実酸実の実(薔薇科)生花 草型 副流し

<6頁の花>

仙溪

陶花瓶

6





出典: https://matsue-hana. com/hana/tamamizuki.html



出典: https://www.digitalmuseum.hiroshima-u.ac.jp/~main/ index.php/ タマミズキ

タマミズキの実

<7頁の花> 仙溪

陶花瓶(清水保孝作) (2012年11月号より)

諸島に分布する高木である。 チノキ科の落葉樹で、静岡から南西 て広がる樹形がミズキに似るがミズ ウメモドキより小さな実は、やや 直立した幹から横枝が階段状に出 タマミズキはウメモドキと同じモ

が、中には雌木だけでも結実するも モチノキ科には雌雄異株の木が多い タマミズキの花。雌花街、と雄花街。



横から見た奥行き

生け替えながら楽しんでいる。



立 花

<8頁の花> 健一郎

花材 薄 (稲科)

葉菊(菊科) 竜胆2色 (竜胆科)

だんに詰め込んだ。 いる時だった。この秋を立花にふん 枝物は丸葉の木と梅花躑躅のみで 野の花の種類が一番多い恵まれて 花器 陶花瓶

<表紙の花> 櫻子

薮苧麻(刺草科)菊(菊科)

陶花瓶

花材

石榴の実(禊萩科)

ヤブマオと取り合わせた。思いがけ 花火の様に咲くキク、花が密に咲く を切り落とした。大切に持ち帰って、 艶々の真っ赤な実が付いた重たい枝 ない花にも出会えて、心に残る1作。 の事。お弟子さんに手伝ってもらい なったので、持って帰っても良いと らせていただいた。今年は沢山実が 倉敷の叔母宅にてザクロの実を採



ザクロの蕾と花と花のあと



出典: https://mirusiru.jp/nature/flower/zakuro

はない。全てが渾然一体と化してい なっていく。私はこの世界の一部で

自分と人との境界が溶けてなく

『溶ける』

健 郎

雪中に溺れる。身体の熱をとられ私 夏の砂浜。じりじり太陽を受ける。 もひんやり。 空から落ちる。体が無くなったよう。 雨でびしょびしょ。傘は置いてきた。 山頂にて瞑想。自分を無くしていく 岩にぴったり。何故か落ち着く。 苔でゴロゴロ。ここから動けない。 水中を泳ぐ。自分と水の境界が曖昧 に振り回される。

花を生ける。花とおしゃべり。

験が可能である。 放っぽり出す方が、想像を超える体 行為は難しい。何も考えず、身体を 頭を使って物を感じ取ろうとする

いる「溶ける」と言う感覚を研ぐ必 溶け込むようになるには、今感じて る。今の自然の一部である切り花に がもう少し必要であると考えてい うか。それには大自然に溶ける練習 花と一体になる事ができるのであろ しいが、感覚を研ぎ澄ましていくと 花と話しながら花を生けるのは楽

けない。 えた雄大さを花から感じなければい 葉に出来てしまうからだ。言葉を超 かし難い。頭でわかってしまい、言

の意識が消え、自分でなくなる。 ても、まだ、溶け込むことはできな い。何かに夢中になった時、自分へ 私は自宅の庭を眺めることはでき

桜とバードウオッチング。鳥の元気

を無くしただけ何かが入ってくる。 まのそれを私で感じていたい。自分 るとは、私を通して伝えられる感覚 対象物の全てを感じられない。感じ ではあるのだが、できるだけそのま 少しでも自分がのこっていると、

る。 リンの音、身体を解放する が動いているのかと感じ と、苦手な音が無くなって ドラム。バスドラムで心臓 いく。心臓に直接響くバス と快の間を彷徨うヴァイオ 音楽に体をゆらす。不快

声も主題ではない。その空 ない。主題がぼかされてい わけでもなく、岩も、蝉の るのである。閑さが主題な 本人がそこにいるだけでも き、蝉を見たわけでもなく、 句である。蝉の声だけを聞 蝉の声」 芭蕉の有名な 「閑さや 岩に染み入る

要がある。単純なものほど自分を溶

態と考えることもできるのかもしれ うで存在せず、自分が溶け込んだ状 間を詠んだ句だと認識している。つ まり、そこに自分は存在しているよ

のではないかという妄想も広がる。 きりたい。世界と私の輪郭線をボカ だが、芭蕉はスカイダイビングをも 地、その地にて自分を溶かし歩いた ていなかっただろう。 かっただろうし、日本から外には出 スキューバーダイビングもしていな 芭蕉は全国各地を歩き回り、その 私は今生きているこの時代を感じ

していけたらなと考えている。



むことができていると感じている。 ないが少なくとも私は相手と溶け込

大自然はどう感じているか分から

但馬で日帰りでのスカイダイビング

仏陀ゆかりの一

仙溪

エ 1

49

る木は次の3つ。 うな木があるのだろう。 のある木について見てみよう。 お釈迦様の生涯と深く関わりのあ インド \dot{o} 聖樹 (聖木) 仏教とゆ にはどのよ

な樹木であったようだ。

インダス文

太古よりインドボダイジ

サラノキ ムユウジュ インドボダイジ ユ

無な沙き菩は

釈

迦は長い

遍歴と苦行の末に、

ウ

要な三神が棲む木でもある。 器が見つかっている。明の遺跡から、その苺 に様々な薬効があり、 大切な木なのだ。 インドの国樹になっているくらい その葉が描かれた陶 ヒンズー 葉、 樹皮、 Ó 主 根

見ることができず、 クワ科イチヂク属の高木で、 枝に直接小さな 花は 釈

2日間瞑想して真の悟り「菩提」本のインドボダイジュの下に座 ラ村(今のブッダガヤ) ユ は大切 で 実ができる。 ながら瞑想していたのだろう。 いそうだが、釈迦もそんな音を聞 中 、タと揺れる音がなんとも心地よ 国 日本でこの木は育たな 1 ŀ -型の 葉が 風

に

禅師が宋から種子を持ち帰った。 国原産の落葉高木で、日本には栄西 寺院に植えられている。こちらは中 代わりにシナノキ科のボダイジュが

の川辺にある2本のサラノキの下で で亡くなる。 何度も行き来して説法を続け、 迦は 45 年 終焉の地、 0) 間 数百キロ クシナガラ 0) 80 道 歳を

インドボダイジュ

クワ科・イチジク属の高木。樹皮や根皮などを薬用とする。

信仰を集める樹齢140年のインドボダイジュ。ブッダガヤのマハボディ寺院 出典: https://tricycle.org/magazine/bodhi-tree-tlc/



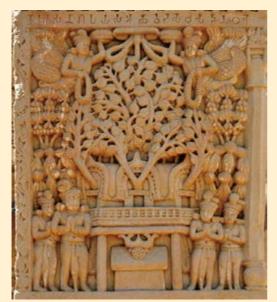
学名: Ficus religiosa

英名: bodhi tree pippala tree

出典: https://china.desertcart.com/ products/139063302-pmw-peepal-treefruit-powder-sacred-fig-raavi-100-gloosepacked-loose-pa



出典:https://astrotalk.com/ astrology-blog/why-is-peepal-treeworshipped/



サーンチー遺跡のレリーフ。紀元前3世紀にアショーカ王がブッダガヤに 建てた寺院とボダイジュ。西暦1世紀。

出典: https://www.wikiwand.com/en/Bodhi_Tree



儀式で使用された陶器のハート 型の葉模様。 B.C.2600-2450。 出典: https://ja.wikipedia.org/ wiki/ インダス文明 #/media/ ファイル:Ceremonial_Vessel_ LACMA_AC1997.93.1.jpg





涅槃。ガンダーラ、ロリヤン・タンガイ遺跡。 2~3世紀。 インド博物館(カルカッタ)。 出典:https://www.pinterest.jp/ pin/389772542744921786/?nic_v2=1a2bOOxfl

⊕と⑤徳 出典: https://www.yamakei-online.com/yama-ya/detail.php?id=677





出典:http://www.flowersofindia.net/catalog/slides/Sal.html

サラノキ

学名: Shorea robusta 英名: Sal tree フタバガキ科・サラノキ属 の高木。3月頃、葉の生え 替わりと共に、淡いクリー ム色の小さな5弁花が無数 に咲く。花には芳香がある。



出典:https://explorepharma.files.wordpress.com/2010/10/ashoka.jpg



出典: http://medicinplants.blogspot.com/2008/08/ashoka-tree-sorrowless-tree.html



釈迦誕生。ガンダーラ、ロリヤン・タンガイ出土。2~3世紀。インド博物館。 出典:https://www.pinterest.cl/pin/ AXO8I5eKMSm7yu8uWT-JzMV1xyS8-Mt049tKRfOXxzzWLUXoRwCOLJs/?nic_ v2=1a2bOOxfl

ムユウジュ

学名: Saraca asoca

英名:Asoka tree, Sorrowless tree マメ科・ムユウジュ属。細長い葉 の常緑小高木。3月頃に美しいオ レンジ色の花(萼)が咲く。 れている。 ヒメシャラが沙羅双樹として植えら 日本ではツバキ科のナツツバキや

時ならぬ花を満開に咲かせ、

釈迦の

々に利用され、

燃やして出る良

釈迦が息を引き取ると、

サラノキ

から

れる樹

脂

ドウー

体の上にその花を降り注いだという。

サラノキはフタバガキ科の高木で、

り合わせて丸い葉皿として使われる。

かる気がする

落ち葉は草の茎で綴

材は堅くて耐久性があり、

様々に利

に咲く花にも芳香がある。浄化するといわれている。

釈迦がこ

ムユウジュはインドでア

ヨーカ

いの煙は病原菌を殺して辺りを

木の下を選んだのもなんとなくわ

が生まれたとされる。 ときに、右脇から男の子(のちの釈迦)ときに、右脇から男の子(のちの釈迦)ときに、右脇から男の子(のちの釈迦)ときに、右脇から男の子(のちの釈迦)と呼ばれるが、「ア(無い)」「ショーと呼ばれるが、「ア(無い)」「ショーと呼ばれるが、「ア(無い)」「ショー

> して今に伝わる。 に孫によると誕生してすぐに七歩 に不に彫られ、仏伝のワンシーンと に石に彫られ、仏伝のワンシーンと に石に彫られ、仏伝のワンシーンと に石に彫られ、仏伝のワンシーンと

い葉と温かな花色を備えている。世に現れる場所にふさわしい、優し色から赤色の花を咲かせる。釈迦がで、春の暖かさを象徴するような黄で、春の暖かさを象徴するような黄

ヤマシャクヤクの実

健一郎

独特の赤と深い紺色が何とも愛らし インパクトを持つ山芍薬。山芍薬 度見たら忘れることのできない 当時である。 陶花器

菊と株分けで生ける予定だったが、 中和させることがもったいなく感じ 山芍薬のはちきれんばかりの個性を ても一種で生花にする事は珍しい。 盛花や投げ入れで生ける事はあっ

真の葉はあえて一つも落とさずに生な状態で残っていることは珍しく、 うが自然に対して自分が何をできる けた。留にもう少し葉があればと思 芍薬の個性があっている。葉が綺麗

わけでもなく、ありのままに生けた。 不恰好で土味を感じさせる器に山





ヤマシャクヤクの花 出典:https://akagishizenen.jp/blog/ ヤマシャクヤクが見ごろです! /

いけばな 桑原専慶流 2020年 12月号 No.690

編集発行 京都市中京区六角 烏丸西入 桑原専慶流家元





クリスマス

<2頁の花> 健一郎

花材 モミの木 (松科 ブルーアイス(檜科)

磁器扁壺 手編みのツリーオーナメント

び心のあるいけばなを楽しんでい 「はなあそび」と題して菜月と遊

ときに、ものの10分程でこさえてく ナメントを、もみの木に合わせてみ た。かぎ針あみに夢中になっていた 今回は菜月の作った手編みのオー

ミの木と北欧風の人形がよく合って 素材が変わりデザイン化されたモ

> 風流な親だろう。ちょうどそれぞれ 仲蓮、季菊から名付けられたとあっ 字をそれぞれ付けるなんて、なんて の季節に生まれたのかな。 子供に、春の蘭、夏の蓮、秋の菊の たが、もし本当だとすると、自分の 国の清の時代の人物の名前、孟蘭、

ることが多い。仲の良い三兄弟のよ 生き生きと見えるようにいけると、 なんともいえない良さを感じる。 うに、互いに助け合い、それぞれも いけばなでは3種類の花材でいけ

みを補い、椿の薄紅色の花と葉で艶 花器を選び、金茶色の大輪菊で温か 和してくれた。私なりの風月三昆。 やかさを加えると、いい雰囲気に調 的な花材だが、金彩のある土っぽい ハシバミは侘びた風情のある個件

三昆(さんこん)

<表紙の花> 仙溪

花材様(樺の木科)

陶コンポート

茶道では秋に蓮根、菊、春蘭の葉株 り、蓮、菊、蘭が描かれる。また煎 あるらしい。 画題に「風月三昆」というのがあ 「三昆」とは三兄弟という意味が

椿「西王母」(椿科) 菊「フエゴダーク」(菊科)



風月三昆の軸と花。いけて十日目。

「風月三昆」を調べてみると、中



メラレウカ

<3頁の花> 櫻子

花材 メラレウカ (フトモモ科) 柏葉紫陽花の葉(紫陽花科) ガーベラ(菊科)

6、7年になる。 メラレウカをいける様になって

同じフトモモ科の樹木である。 ティーツリーとも呼ばれるが、最 オーストラリア原産でユーカリと

らかく包み込んでくれる。 られ出荷される様になってきた。 がして自然の恵みを感じる。 近では日本でも暖かな場所では育て 飾る場所が清潔な空間になる様な 手で葉を揉むと爽やかで清い香り 繊細な黄金色の葉がガーベラを柔

ように、秋を彩る身近な花材となる もらえたが、紅葉した木苺や雪柳の 今年はお稽古で何度もいけさせて





菊一色

É

<4頁の花>

健一郎

化材 糸菊(菊科) 化型 立花 菊一色 除

花器 銅薄端

園芸が発達し、自然の勢いを器に生けることが難しくなっている。花生けることが難しくなっている。花をのだ。花一輪ずつの個性が均一化されると個の魅力を引き出すのが難しい。丁寧に育てられた菊では自然の状況を想像しがたいのだ。今回は各々が伸びたいように伸びた勢いのある菊と一本づつ向き合えた時間にある菊と一本づつ向き合えた時間に感謝している。

鋼器に施された絵は一般庶民がか。今までの自分だと絶対選ばなか。今までの自分だと絶対選ばなかった器である。自然を表現する身として、人の存在を消したいというとして、人の存在を消したいというとして、人が花と在る景色を受け入れることができている。人が花と在るあたたかさが身いる。人が花と在るあたたかさが身



『魅力』 健

郎

マスクをつける事が日常になってマスクをつける事が日常になって、そんな中私は髭を伸ばしてみた。く。そんな中私は髭を伸ばしてみた。菜月の勧めである。私は中学生の頃、菜月の勧めである。私は中学生の頃、菜月の勧めである。私は中学生の頃、菜月ので鏡をみたとき自分の顔に違和感を感じた。髭については漠然と、歳を重ね90歳ぐらいになれた時に山で菜重ね90歳ぐらいになれた時に山で菜重ね90歳ぐらいになれた時に山で菜重ね90歳ぐらいになれた時に山で菜

成り立つ行為である。無ムダ毛処理と言う言葉がある。無な毛、つまり汚らしく見える毛をある。これは人の目があるからこそある。にれば人の目があるからこそがある。無

植物を見る行為、また見せる行為をして発展してきたいけばな。花を生けるときは多すぎる葉、虫食いの生けるときは多すぎる葉、虫食いのないをを取り除く事で美しくみせる。見ていて気持ちのいい花を生けることが基本にある。

でいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。

> 鳥、人を魅了する。 の魅力となり、花びらを使って虫や、の魅力となり、花びらを使って虫や、花びらをしって虫や、花びらも、独立的な役割も持つ。髪

のまり、余計なものでは断じてない、それぞれが役割を持っている。 り、みる、みられる関係においては、 美しい、美しくないの物差し、つまく、それぞれが役割を持っている。

身だしなみと、おしゃれはどちらも、みられる場合において成り立つ。も、みられる場合において成り立つ。えるべく葉を整理するが、触れる人えるべく葉を整理するが、触れる人う事がある。没個性的な花になってしまい、その花である必要性がなくなってしまう。一枚の葉っぱ単位でなってしまう。一枚の葉っぱ単位でなってしまう。一枚の葉っぱ単位でなってしまう。一枚の葉っぱ単位でなってしまう。一枚の葉さいが、他れる人を動して存在して欲しいと考えている。して存在して欲しいと考えている。して存在して欲しいと考えている。こともある。おしゃれは我慢だということだろうか。

までしなみは周りへの配慮であり、おしゃれは見せたい自分をみせり、おしゃれは見せたい自分をみせり、おしゃである。周りへの配慮を考えることで、ある一定の水準以上の清潔な花を生けることができる。個性潔さを求め、手を加えるほどにそのである。またしなみは周りへの配慮であり、おしゃれは見せたい自分をみせり、おしゃれば見せたい自分をみせり、おしゃれば見せたい自分をみせり、おしゃれば見せんがある。

できることだ。がきることだ。

私にとって良い花とは、同じ種類であろうと各植物の個性を存分に引き出し、生命力に満ち溢れ、輝いてにとって苦手な種類の特性であっても、自分の好みに寄せず、その個性が私も、自分の好みに寄せず、その個性が私も、自分の好みに寄せず、その個性が私りまり魅力を引き出すことでその命が輝くのである。

理でき、スッキリとしている。ている。なんとなく自分が今までしている。なんとなく自分が今までしがループホームで人と日々向き合っがループホームで人と日々向き合っがループホームで人と日々向き合ったけでなく、

認知機能の低下が著しい利用者を担え付け、職員にとって都合の良いいでいる。各利用者の体に無理がないでいる。各利用者の体に無理がないでいる。格利用者の体に無理がないが、何をしたっていい。職員が押さば、何をしたっていい。職員が押さば、何をしたっていい。職員が押さば、何をしたっていい。職員が押さば、何をしたっていい。職員が押させている。机が持ち上がらないのなら手伝おう。机が汚れたら、消毒すら手伝おう。机が汚れたら、消毒すればいいだけだ。

ことを、自分を剥き出しにして、おき合い、本人がしたくてもできないずらをしあい、注意され、不安と向ずのをしまい。

手伝いをしている。介護のことを、できなくて可哀想だからしてあげよできなくて可哀想だからしてあげようだなんて考えたことはない。 置っても職員が、自己表現をしようとしている人の障害にだけはならなとしている人の障害にだけはならなとしている家族の介護を助けるため、屋さんを頑固な高齢者として見て欲しくない。家族の介護を助けるため、しくない。家族の介護を助けるため、しくない。家族の介護を助けるため、しくない。家族の介護を助けるため、間々が生き生きとして最後まで生活的は利用者の生きる意義を見出し、的は利用者の生きる意義を見出し、できる環境を整える事ができたらなできる環境を整える事ができたらなと考えている。

自分の価値観を押し付けた瞬間にその人のらしさは、その人の中に逃その人のらしさは、その人の中に逃げ込んでしまい、表出しない。そのが生きるということでは無いだろうか。安心できる環境に身を置けろうか。安心できる環境に身を置けろうか。安心できる環境に身を置けるうか。安心できる環境に身を置けるが、大の奥にある、らしさを引き出する。

仕事をしている。生きしている人の目が大好きでこの生きしている人の目が大好きでこの生き生きしている人は夢中だ。生き

生であると今は考えている。生き生きと生きることが、最高の

生きる事は美しい

うもしっくりこない。鏡に映る自分一週間程、髭を伸ばしてみたがど

きれずに剃った。とれずに剃った。をれずに剃った。ないで」と騒いでいる。菜月だけは、ないで」と騒いでいる。菜月だけは、がーイング。「私の前でご飯を食べが汚らしく見える。叔母からも、大が汚らしく見える。叔母からも、大

しかし、道を歩いているとどうもは丁寧に手入れされ、その人の魅力となり、静かにそこにいる。虫食い葉が似合う花、ちぎれた葉、奇形な花があろうとも、それが魅力とさえなれば、あるべきだ。むしろその魅なれば、あるべきだ。むしろその魅なれば、あるべきだ。むしろその魅なれば、あるべきだ。むしろその魅力を取り除くことで、大きなマイナスに働くわけである。その人にとっち





赤い実 黒い種

<6頁の花>

枯向日葵(菊科)・梅擬(黐の木科)

糸菊3種(菊科)

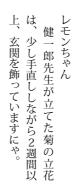
化器 陶花器

輝きだした。
かメモドキの赤い実に、黒い種をびっしりつけた大輪の枯ヒマワリをひっしりつけた大輪の枯ヒマワリをびっしりつけなると、それぞれの命がいまだ。まい種を

仙溪 レモンちゃん

てくださいにゃ。
ストーブにへばりついて離れま









初冬の盛花

<7頁の花>

寒菊(菊科) 水瓜(薔薇科) 水瓜(薔薇科) 水瓜(薔薇科)

花器 陶水盤 (清水美菜子作)

から冬まで花を咲かせるので寒木瓜ボケは春の花だが秋にも咲く。秋 少し重なる。同じく「寒」のつくカ とも呼ばれ、冬に咲く水仙と時季が 私の好きなとり合わせだ。 いかにも初冬の風情が感じられる。 ンギクとの3種でとり合わせると、

ら、スイセンにアカメヤナギとバラ る。もう少しくだけた感じにするな の組みあわせもオススメだ。 でもボケもカンギクも少々値が張

アカメヤナギの枝分かれ1本。 バラ1本。 スイセン2本。

レモンリーフ少々。

ら、皆素敵な花をいけてくれた。 でこのとり合わせで教えたが、バラ が気持ち良さそうな場所を考えなが 赤い側を自分の方へ向け、スイセン の葉を大事に広げ、アカメヤナギの 先日、中学校のいけばな体験授業





柳行李 出典:http://ei4web.yz.yamagata-u.ac.jp/ mogamigawa/life/yanagigouri.html

行_{うりゃなぎ} 椿ぱき

仙溪

花型 花材 行李柳 (柳科) 生花二種挿 草 型 副流し

花器 煤竹竹筒

椿 (椿科)

では、行李(籠の箱)に服や物を収明治時代以降、箪笥が普及するま 羅から伝わったそうだ。 納していた。行李の材料として柳が 使われたが、柳細工は2千年前に新

広まって、様々な行李がつくられ利 ギ(杞柳)で編まれた杞柳細工が産柳箱」がある。但馬国のコリヤナ ギ(行李柳)と呼ばれるようになっ 用されて、コリヤナギはコウリヤナ 奈良正倉院御物の中にも「但馬国

むかれてやっと細工の素材になる。 めに頻繁に脇芽を摘んで育て、初冬 ごもりを終えたものが、晩春に皮を いる。節のない細く長い枝にするた に刈り取り、足元に水を絶やさず冬 柳行李は現在も豊岡でつくられて 行李柳は撓めやすい。いけていて

万年青の生花

仙溪

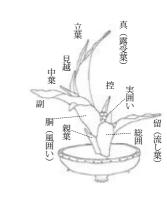
万年青(百合科)

山地の林下に生える。 常緑多年草。東海道以西の暖地の

知られる薩摩おもとの代表品種。 い覆輪のある品種で、江戸時代から 「都城(都尉)」は大型の葉に白

楽しめる。 を大切に扱い上品な姿にいける。 実の茎に添え木をしておくと長く 常緑の葉と初冬から赤く色づく実

九葉一果













壁画 に描かれたハスと瓶

仙溪

から

出現する世

宙

あったことを、前号まで見て来た。 でどのように変わっていったのだ 命力を持つ聖樹に対する信仰心が してとらえていたことや、 ではハスを生命そのものの象徴と 仏教誕生以前より、 古代インドでのハスに対 仏教が伝わる中 古代インド 強い生

た話があるが、 神の臍から生じた蓮華の上にブヒンズー教の神話でも、ビシュ がすわって宇宙を創造し 水から生まれるハ 薩がよく手にな持ち物の るの

1

2

て絵の中のハスの気になるものを 0) まず中国の西の玄関口、 ジも加わって行くこととなるのだ 形で引き継がれ、また新たなイメー イメージは仏教の経典にも様々な を重ねていたことがうかがえる。 くつか紹介してみよう。 壁画から、 何 ,中国の西の玄関口、敦煌ほか詳しいことは一旦置いておき、 かがハスから生まれるという いけばなの観点で見

がよく手に持っているの は頷ける。 修行中である菩薩が持ってい 一つに水瓶がある。において出家者の大 図①は菩薩が右手 らも水瓶 。 大 菩斯切

大乗仏教に

水を入れる容器なので、 はたして図①の花も蓋として描 することもあったようだ 入るのを防ぐために花で口に蓋を れているのだろうか。 ように見えるが、 に持った水瓶に花が挿さ 水瓶は浄ま 悪い物 (<u>N</u>2)° Ŕ 1

の器と花にどんな意味があるのだ またでよう
そこからハスが生まれ出る図像 いるのかもしれない。このガラス 循環する生命そのものを表現して 命の源としての水を壺で表現し、 ガラスの器を持つ菩薩の絵 、満瓶と呼ばれる)もあったので、 もあるが、古代インドでは生

また、花を挿したように見える (X) (3)

唐 (766~835年) ガラス碗を手に蓮を養う菩薩。 敦煌莫高窟 199 窟壁画。

中

出展: https://kknews.cc/culture/5bp4e8l.html



李麗質 (621 ~ 643) の墓の壁

大勢至菩薩立像(絹本設色)。敦煌莫高窟。(唐代)。 ペルシャ製の銀製壺のような瓶にハスが挿されている。 出展: https://kknews.cc/culture/5bp4e8l.html

唐の太宗・李世民の五女、

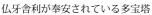
ガラス碗を手に蓮を養う菩薩。敦煌莫高窟 328 窟壁画。 盛唐 (713~765年)。

出展:https://spc.jst.go.jp/experiences/change/change_1719. html











る限り注視した。かつて水や養 ない。」藤井隆也 れた56枚の落ち葉たちは、稀有 だった。ドイツの地で私と出会 ち葉を通じて行った命との対話 分の通路であった生命活動の証 ち葉を写した。その葉脈を見れ な運命を持っていたのかもしれ い、遠く日本の鹿王院まで運ば である。それは、1枚1枚の落 「私は56枚のオーク(ナラ)の落 会期 10月30日金~11月1日出

会場 鹿王院 テキスト No.651 でもご紹介し 襖絵制作 藤井隆也 嵐電「鹿王院駅」徒歩4分

のを見せて頂いた。 来したと伝えられる仏牙舎利を奉 で、舎利殿には源実朝が宋から将 鹿王院は足利義満ゆかりの寺

た藤井氏が56面の襖絵を描かれた

安する。

験であった。 がらにして森を感じる不思議な体 ち帰ったナラ(楢)の葉が一枚ず れの葉の命の気配があった。居な つ描かれていた。そこにはそれぞ 襖には藤井さんがドイツから持

で、是非訪れてみてほしい。 今後も襖絵は見られるそうなの

拝観カタログより)

(鹿王院令和襖絵56面落成記念





アメリカハナノキ

アメリカハナノキ(楓科)

ダリア(菊科) 月桃の実(生姜科)

別名アカカエデ、ベニカエデ。早春、 リカ北部~カナダに分布する落葉高 木。公園や街路に植栽されている。 ハナノキを切ってもらった。アメ

jumoku/133-amerikahana/amerikahana.html